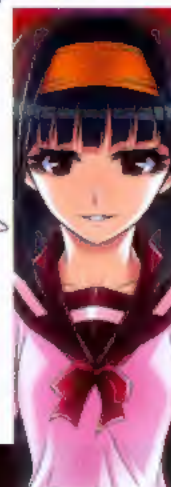


JUMP COMICS

めだかボックス



めだかボックス 11



9784088702742



1929979004002

ISBN978-4-08-870274-2

C9979 ¥400E

定価 本体400円＋税



ジャンプ・コミックス

雑誌 43094-74

生 徒会選挙最終戦を前に、最凶の過負荷・球磨川裸が帰還。球磨川はめだかとの決着を誓い「はじまりの過負荷」を取り戻していた。そして遂に幕を開ける会長戦。長きに亘る過負荷との戦いに、いま終止符が打たれる!!



西尾維新
NISIOISIN

浦島太郎のお話に対する疑問点として、
「どうして乙姫様は浦島太郎に玉手箱を渡したのか？」というものがよく取り沙汰されますけれど、僕はどちらかと言うと「どうして地上では三百年の月日が流れてしまっていることを教えてあげなかったのか？」のほうが不思議です。
それを言ったら、浦島太郎も電宮城から去ろうとはしなかったでしょうに。
まあ無邪気に宴を楽しむ浦島太郎に、そんな水を差すようなことは



困ったことに、寝ていい時間に

寝れなくて、寝ちゃだめな

時間に寝てしまいます。

昔は寝れないなら起きていれば

いいの精神で、徹夜三昧の日々

でしたが、年とともにキツくなって

きました。

もろもろ考えて出した答えは、

「引っ越しをしよう」です。

.....あれ？



箱庭学園第98代生徒会最後の死闘

第一部、完。

原作・西尾維新 漫画・暁月あきら

第11巻。物語は終わり、現実が始まる。

漫画 暁月あきら
原作 西尾維新
集英社

彼らの戦いの全史がここに!!

JC
1~10巻
大絶賛
発売中!!
定価:各巻420円(税込)



「めだかボックス」⑪

ISBN978-4-08-870274-2

JUMP COMICS

めだかボックス



めだかボックス 11



ISBN978-4-08-870274-2

C9979 ¥400E

定価 本体400円＋税



ジャンプ・コミックス

雑誌 43094-74

生 徒会選挙最終戦を前に、最凶の過負荷・球磨川裸が帰還。球磨川はめだかとの決着を誓い「はじまりの過負荷」を取り戻していた。そして遂に幕を開ける会長戦。長きに亘る過負荷との戦いに、いま終止符が打たれる!!



困ったことに、寝ていい時間に
寝れなくて、寝ちゃだめな
時間に寝てしまいます。

昔は寝れないなら起きていれば
いいの精神で、徹夜三昧の日々
でしたが、年とともにキツくなって
きました。

もろもろ考えて出した答えは、
「引っ越しをしよう」です。

.....あれ?



西尾維新
NISIOISIN

浦島太郎のお話に対する疑問点として、
「どうして乙姫様は浦島太郎に玉手箱を渡したのか?」というものがよく取り沙汰されますけれど、僕はどちらかと言うと「どうして地上では三百年の月日が流れてしまっていることを教えてあげなかったのか?」のほうが不思議です。
それを言ったら、浦島太郎も竜宮城から去ろうとはしなかったでしょうに。
まあ無邪気に宴を楽しむ浦島太郎に、そんな水を差すようなことは

箱庭学園第98代生徒会最後の死闘

第一部、完。

原作●西尾維新 漫画●暁月あきら

第11巻。物語は終わり、現実が始まる。

漫画 暁月あきら
原作 西尾維新
集英社

彼らの戦いの全史がここに!!

JC
1~10巻
大絶賛
発売中!!
定価:各巻420円(税込)



「めだかボックス」⑪

ISBN978-4-08-870274-2

JUMP COMICS

めだかボックス

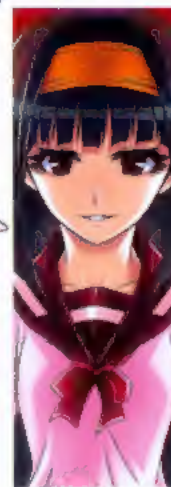


原作 西尾維新
漫画 暁月あきら

11

「今も昔もそんな君が」

めだかボックス 11



原作 西尾維新
漫画 暁月あきら

集英社



9784088702742



1929979004002

ISBN978-4-08-870274-2

C9979 ¥400E

定価 本体400円＋税



ジャンプ・コミックス

雑誌 43094-74

せい 徒会選挙最終戦を前に、最凶の過負荷・球磨川裸が
生 帰還。球磨川はめだかとの決着を誓い「はじまりの
過負荷」を取り戻していた。そして遂に幕を開ける会長戦。
長きに亘る過負荷との戦いに、いま終止符が打たれる!!



困ったことに、寝ていい時間に
寝れなくて、寝ちゃだめな
時間に寝てしまいます。

昔は寝れないなら起きていれば
いいの精神で、徹夜三昧の日々
でしたが、年とともにキツくなって
きました。

もろもろ考えて出した答えは、
「引っ越しをしよう」です。

.....あれ？



暁月あきら
AKATSUKI AKIRA



西尾維新
NISIOISIN

浦島太郎のお話に対する疑問点として、
「どうして乙姫様は浦島太郎に玉手箱を
渡したのか？」というものがよく
取り沙汰されますけれど、僕はどちらかと言うと
「どうして地上では三百年の月日が流れて
しまっていることを教えてあげなかったのか？」
のほうが不思議です。
それを言ったら、浦島太郎も竜宮城から
去ろうとはしなかったでしょうに。
まあ無邪気に宴を楽しむ浦島太郎に、
そんな水を差すようなことは
言い出せなかったんでしょうね。
海中だけに。
そんな感じでたまためボックス第11巻、もとい、
めだかボックス第11巻、
お楽しみください。



●週刊少年ジャンプ・H23年14号～23号掲載分収録

JUMP COMICS

めだかボックス

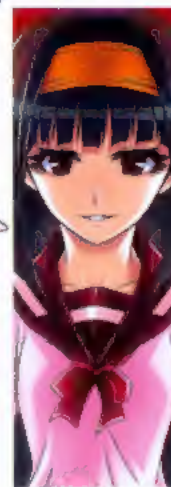


原作 西尾維新
漫画 暁月あきら

11

「今も昔もそんな君が」

めだかボックス 11



原作 西尾維新
漫画 暁月あきら

集英社



9784088702742



1929979004002

ISBN978-4-08-870274-2

C9979 ¥400E

定価 本体400円＋税



ジャンプ・コミックス

雑誌 43094-74

せい 徒会選挙最終戦を前に、最凶の過負荷・球磨川裸が
生 帰還。球磨川はめだかとの決着を誓い「はじまりの
過負荷」を取り戻していた。そして遂に幕を開ける会長戦。
長きに亘る過負荷との戦いに、いま終止符が打たれる!!



困ったことに、寝ていい時間に
寝れなくて、寝ちゃだめな
時間に寝てしまいます。

昔は寝れないなら起きていれば
いいの精神で、徹夜三昧の日々
でしたが、年とともにキツくなって
きました。

もろもろ考えて出した答えは、
「引っ越しをしよう」です。

.....あれ？



暁月あきら
AKATSUKI AKIRA



西尾維新
NISIOISIN

浦島太郎のお話に対する疑問点として、
「どうして乙姫様は浦島太郎に玉手箱を
渡したのか？」というものがよく
取り沙汰されますけれど、僕はどちらかと言うと
「どうして地上では三百年の月日が流れて
しまっていることを教えてあげなかったのか？」
のほうが不思議です。
それを言ったら、浦島太郎も竜宮城から
去ろうとはしなかったでしょうに。
まあ無邪気に宴を楽しむ浦島太郎に、
そんな水を差すようなことは
言い出せなかったんでしょうね。
海中だけに。
そんな感じでたまためボックス第11巻、もとい、
めだかボックス第11巻、
お楽しみください。



●週刊少年ジャンプ・H23年14号～23号掲載分収録

JUMP COMICS



MEDAKA-BOX

めだか
ボックス

11



「今も昔もそんな君が」

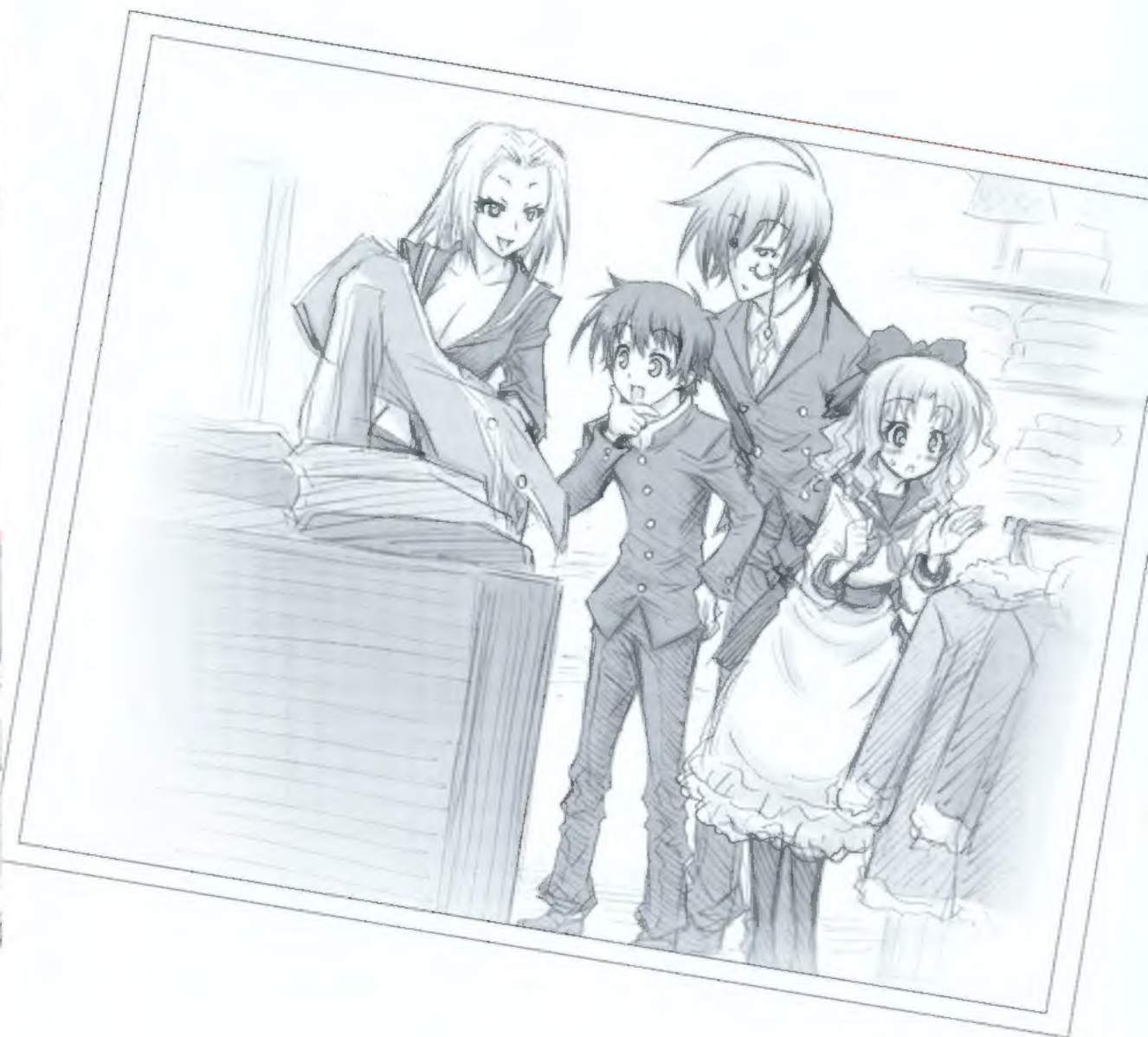
原作 **西尾維新**
漫画 **暁月あきら**

めだかボックス 11



原作 西尾維新
漫画 暁月あきら

集英社



ジャンプ・コミックス
集英社

★この作品はフィクションです。実在の人物・
団体・事件などには、いっさい関係ありません。

JUMP COMICS 

めだか ボックス



11

「今も昔もそんな君が」

原作 西尾維新
漫画 暁月あきら



人物紹介

めだかボックス

じんぶつしょうかい



くろ かみ
黒神めだか

しよぞく ねん くみ
所属：一年十三組

けつえきがた エービーがた
血液型：AB型

せい と かいちよう
生徒会長

ひと よし ぜん きち
人吉善吉

しよぞく ねん くみ
所属：一年一組

けつえきがた エービーがた
血液型：AB型

しよ む
庶務



あ く ね ころ せ
阿久根高貴

しよぞく ねん くみ
所属：二年十一組

けつえきがた エービーがた
血液型：AB型

しよ き
書記



き かいじま
喜界島もがな

しよぞく ねん くみ
所属：一年十一組

けつえきがた エービーがた
血液型：AB型

かい けい
会計

しら ぬい はん ぞで
不知火半袖

しよぞく ねん くみ
所属：一年一組

けつえきがた エービーがた
血液型：AB型





人吉瞳



古賀いたみ



名瀬天歌
(黒神くじら)



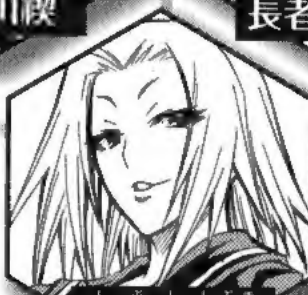
球磨川禊



長者原融通



黒神真黒



志布志飛沫



江迎怒江



安心院なじみ



蝶ヶ崎蛾々丸

STORY

ストーリー

黒神めだか率いる箱庭学園生徒会。善吉、阿久根、喜界島が加入し、現在は四人で活動中である。

「生徒会戦争」第3試合の会計戦は人吉瞳VS江迎。各バートナーである善吉と球磨川が爆弾の脅威に晒される中での戦いは、最後に改心した江迎が身を挺して球磨川の奇策を阻み、結果は引き分けに続く副会長戦の日の影VS蝶ヶ崎は、一時的に進化を遂げた日の影が死闘の末、勝利をもぎとった。

一方、球磨川は安心院のもとを訪れ、「はじまりの過負荷」を取り戻し帰還。そして遂に最終戦が…。

MEDAKA

CONTENTS

11

第89箱	「そしてルールはただひとつ」	7
第90箱	「今も昔もそんな君が」	27
第91箱	「違いがあるとすれば」	47
第92箱	「永遠に終わらないと言われていた」	67
第93箱	「平等なだけの人外だよ」	87
第94箱	「黒神めだかの後継者作り」	107
第95箱	「ひとりでもいるのなら」	127
第96箱	「僕の仕事だからね」	147
第97箱	「笑ってやってください」	167



BOX

七月十七日

リコール発動及び
生徒会戦争開催決定

七月二十五日

庶務戦

八月一日

書記戦

八月八日

会計戦

八月十五日

副会長戦

そして
八月二十二日

会長戦
当日！

第89箱 「そしてルールはただひとつ」

それではお時間になりましたので
生徒会戦争会長戦を
執り行います

生徒会側から
出馬されるは
黒神めだか様

生徒会側から
出馬されるは
不知火半袖様で
ございます

どちら様も
悔いの残らぬよう
ベストを尽くして
くださいませ



はあ〜い

「囃い」の
残りめよう

ね

善ちゃん

あの不知火って奴
お前の友達
なんだろ？

今更だが
教えとけよ——
あいつって
戦える奴なのか？



……
戦えませんよ

たぶん
かぶと虫より
弱いです

つかそもそもあいつが
この場に来たこと自体に
俺は驚いてますね

どんなときでも
裏方に徹して
暗躍を好み

表舞台には
ほとんど立たない
奴なの……



ただし
今はあの通り
マイナス十三組に
属してはいますが

俺は
不知火半袖という
親友が

負けるところを
見たことが
ありません

弱くても
負けない…

ふむ

つまり
鍋島先輩と
同じタイプか

そうですね

しかし
鍋島先輩と
不知火は
決定的に
明らかに
違いがある――

…まあ
どうあれ

球磨川の旦那を
相手にするよりは
遥かにマシなだろう
けどな……



それでは恒例の
くじ引きでございます
――不知火さま

会長戦のルールを
決めていただき
ますので

用意された十三枚から
好きなカードを
お選び下さい

いえ

えら
選
び
ま
せ
ん

あ
た
し
は

たたか
戦
う
つ
も
り
は
あ
り
ま
せ
ん
か
ら



そ
し
て
あ
た
し
の
だ
い
り
で
か
い
ち
や
う
せ
ん
会
長
戦
を
戦
う
せ
い
ト
生
徒
と
し
て

くろ
か
み
黒
神
め
だ
か
と
戦
う
マ
イ
ナ
ス
過
負
荷
と
し
て

く
み
マ
イ
ナ
ス
十
三
組
の
リ
ー
ダ
ー

く
ま
が
わ
み
せ
ん
ば
い
球
磨
川
禊
先
輩
を
す
い
せ
ん
推
薦
し
ま
す





逆に言えば
万が一あたしが勝って
マイナス十三組が
生徒会執行部に
成り代わったとしても

それで負けを認めて
黙って引き下がる
あなた達でもないでしょう



どーせ
生徒会戦争なんて
建前であり口実でしょ

だからあなた達が
マイナス十三組から
学園を守るための
この戦いは

突き詰めたところ
生徒会役員のポストに
本気で固執してる奴なんて
ひとりもない

黒神めだかと
球磨川諷が
決着をつけない限り
終わらないんですよ

しかし
それにしたって

めだかちゃんど
球磨川を戦わせる
ためだけに

お前は色々裏で
動いていたってわけだ

ここにきて
随分勝手なことを
言ってくれるじゃ
ねえかよ

…それが今回の
君達の企みかよ





まーねー

結局人間が

わがままを通すのに
これ以上の手段はないよ

ちゃんと

話して

伝える

正喰に

ね☆



……お待ちください
不知火さま

貴重なご意見は
承りましたが
しかし

選挙管理委員会
としてはあくまで

そんな横紙破りを
認めるわけには
いきません



でしょうねー
いや
冗談抜きで

ゴッ

あたしはあなたが
一番の難関だと
思っていましたよ

ゴッ

選挙管理委員会
副委員長
長者原融通先輩!

だから当然
手は打つてます

!?

なつ…

それは
委任状!?

委任状

生徒会執事の執行に限り
私の業務を一年マイナス十三組
不知火半袖に委任します。

選挙管理委員会 委員長
マキアライ カルマ
大刀洗 斬子

せんきょかんり いんちよう
選挙管理委員長
たちあらいさるこ
大刀洗斬子からの…!?

そうです

彼女は彼女で聖物ですから
口説き落とすのに
一か月以上かかりました
けれど

生徒会戦挙の
執行に関してのみ
この通り

この不知火に
全権を委任して
いただきました!

長者原先輩

期間限定とはいえ
上司の立場から
お訊ねしますが

球磨川先輩の
会長戦における
代理立候補

認めて
いただけますね?

…それが
委員会の
決定であれば

副委員長の私は
従うだけです!

一か月以上つて…
あいつ俺達が過負荷と
戦ってる間ずっと
選挙管理委員長を
相手取ってたのかよ

暗躍どころじゃねえ
—そんなの

立派に一つの
戦いじゃねーかよ

……
そうですね

そして
あれが

鍋島先輩と
不知火との
違いです

銅島先輩は
ルールうらの裏を
かくけれど

不知火は
ルールを
変えちまう!!

あたしからは
以上でーす

とは言え

大人の意思は
確認しないとね

どうですか
お嬢様

私の提案に
乗っていただけ
ますか?

…貴様の提案と
いうのは気に入らんが

しかし確かに
貴様と戦つても
始まらん

そそのかされて
やるよ
好きにしろ

ただし
もちろん

もうひとりの
当人である
球磨川が同意
するならの話だ

だ
そうですが

どうします
球磨川先輩?

戦いますか?
戦いませんか?

ぴん

戦^{たたか}うよ

僕は

めだかちゃんと
戦^{たたか}う



……
もとより僕は

そのためにだけに
箱庭学園に
転校して
きたんだ……







よかった

不利^そじや
なきや

過^お負^お荷^かが
勝^かったことには
ならない

…異^い存^{ぞん}は
ないようだな

ならば
会長^{かいちょう}戦^{せん}のルール

好き^すに決^きめさせて
もらうぞ

どうする
つもりだ？

もちろん
めだかちゃんか
自分に有利^{えき}なルールを
設定^{ていけい}するとは
思^{おも}わないけど

マイナス十三組と
完全に決着^{けつちやく}を
つけるためのルールと
なると――


名^な付^づけて
「人間^{にんげん}比^ひべ」

ステージは
箱庭^{はこぢやう}学^{がく}園^{えん}全^{ぜん}域^い――
スタートはたった今^{いま}
この場所^{ばしょ}から

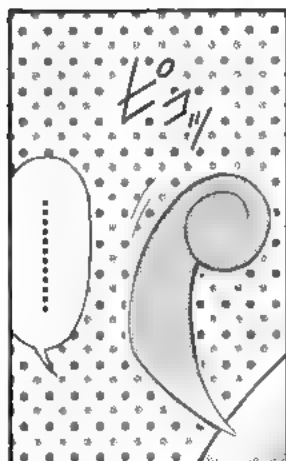
ファールはなし――
武器^{ぶき}を使^{つか}おうと
何^{なに}をしようと
構^{かま}わない

タイムアップもなし――
決着^{けつちやく}がつくまで
永遠^{えいゑん}に戦^{いくさ}い続^{つづ}ける

そして
ルールは
ただひとつ



負^まけたと
思^{おも}った方^{ほう}の
負^まけだ



裏をかくも
変えるもない

これ以上に
禍根の残らんルールは
他にあるまい



よろしいですか
球磨川さま？

……では
ギブアップのみを
決着条件とする
ということだ



あひやひや！
やっぱ
敵わないなあ

それでござだよ
お嬢様！



ああ

そうだな――



オーケー！
わかりやすくて
素敵だ

恨み骨髄だろう
僕に対して
フェアなルールの
提示をありがとう

長きにわたる
きみの因縁も
これで決着だ

せめて
いい試合をしようね
めだかちゃん





フェアナールの
提示をありがとう

僕はきみの

そういうところが
一番嫌いだよ

めだかちゃん!!

球磨川の
野郎...

不意討ち!
闇討ち!
騙し討ち!

あいつやっぱ
なんも変わっちゃ
いねえ!!

当たり前
だよー
俺が俺のままで

過負荷のままで
勝たなきゃ
意味がない

罵声を浴びつつ
汚名を背負って
自己嫌悪に
浸りながら

俺はめだかちゃんに
勝つんだ

...そうか

それはとても
嬉しいな

貴様の
本気が

貴様の
本音が

私は
嬉しい

…奇襲されたのに
なんで笑ってるのさ

実な子だね

ああ—
私も不謹慎だと思
いさつきからずつと
堪えていたのだが

しかしもう
駄目だ

破顔
せずには
いられない

中学一年の
夏休みから
足掛け三年

ギ
ギ

つまり
体感時間で
三億年！

ギ
ギ

球磨川！

私は貴様と
戦える日を

三億年
待ったぞ！！

恨みも怒りも
今はない

私こそこの戦いを
実現させてくれた
すべてに感謝する

善古にも
阿久根書記にも
喜界島会計にも

くじ姉にも
兄貴にも
古賀二年生にも

人吉先生にも
日之影前会長にも
不知火にも

志布志同級生にも
蝶ヶ崎二年生にも
江迎同級生にも

長者原二年生にも
大刀洗二年生にも
理事長にも

そしてもちろん
貴様にも

感謝かんしゃしか
ない!!



きみの
そういうところも
嫌いだよ



本当に
変な子だ
もちろん
僕は



『却バック本作メーカーり!!』



だから遠慮えんりょなく
使つかわせてもらっぜ

僕の
鉄断てつだんの通負荷まいなす

『何人か代理を

出しち^いいるけど^いて...

四戦中三戦までが

代理だろうが

おめーら

まあ三分の二は

あたしのせいだから

しれないけど...





そんな：
どうしてですか
鍋島さん！
雲仙さん！

お願いします！

私達も戦争戦の応援に
連れて行ってください！！

第90箱 「今も昔もそんな君が」



今日は戦つとるんが
黒神ちゃんやからな！

んー
その気概は
買うけどなー
けどまあ
無理なもんは
無理ゆーか



最後くらいちゃんと
生徒会のみんなを
応援したいんです！！

ああ！
球磨川のことは
確かに怖エが

だけどせめて！
出来る限り
そばにいてやりてえ！！



や
ちやうちやう

そういうことや
のうてー



!? 黒神さんだから
でしょう！?

今駆けつけずに
いつ駆けつけるん
ですか！！

応援は任せておけと
いうつもりかも
しれませんけどー





すげえ…
戦いながら時計台を
駆けあがっていくぜ

めだかちゃんは
ともかく
球磨川まで…



黒神は相手の力を
引き上げちまう
ところがあるからな

相手が球磨川でも
それは例外じゃ
ねーってことか…



きみ達何を
しているんだい
早く追うよ

急がないと決着が
ついてしまうぞ





決着がついて
しまうって…

真黒さん

あなたはどっちが
勝つと思っ
てるんですか？

決まってるじや
ないか

そんなこと



こんなまともな
戦いで
弱者が強者に

球磨川くんが
めだかちゃんに
勝てるわけが
ないだろう

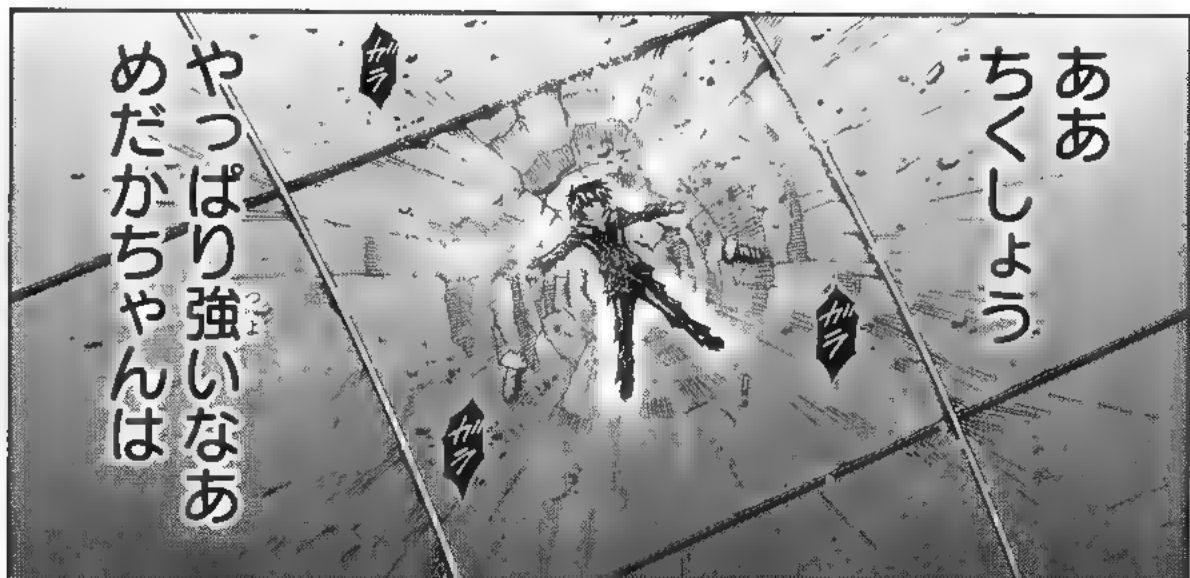


本気で
殴るぞ

耐えろ

……うん

やって
ちょうだい



とことん強くて
とにかく凄くて
とりわけ気高く
とびきり格好いい

あつとうでき
ぜったいでき
圧倒的に絶対的な
女の子だ



せつかく取ってきた
僕のはじまりの
過負荷――

「却本作り」を
使う際なんて
まるでないで
やんの



ははっ！
楽しいなあ
球磨川！

貴様と戦うのは
楽しいなあ――
さあ！
もっともっと戦うぞ！！

やれやれ
こっちの気も知らずに
嬉しそうに――

本当に
弱い奴の気持ち

がんばれない奴や
できない奴の気持ち
わからない子だぜ



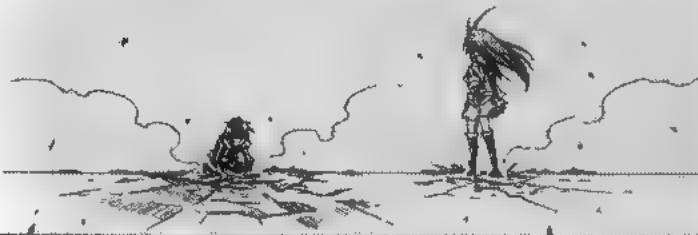
僕は今も昔も
そんなきみが
大嫌い

今も昔も
そんなきみが
大好きだったよ

僕れた
睡先生より

服うた
安心院さんより

お父さんより
お母さんより
大好きだ



思えば
初めて会った
あの時から

僕はきみの気を
引くことに
精一杯だったね





どうした
球磨川？

まさかもう
負けを認めるのでは
あるまいな？

いやいや—
ちよつと気付いたことが
あっただけさ

わかんないもんだね
自分の気持ちなんて



ただいまあ
気付いたからには
ちゃんと伝えなきゃね

その気持ちって奴を

たとえ
気持ち悪がられたと
しても



ちゃんと

話して

伝える

正喰に

ね☆

…不知火ちゃん—

これは結局きみのほうが
マイナスとして役者が
上だったってことかな

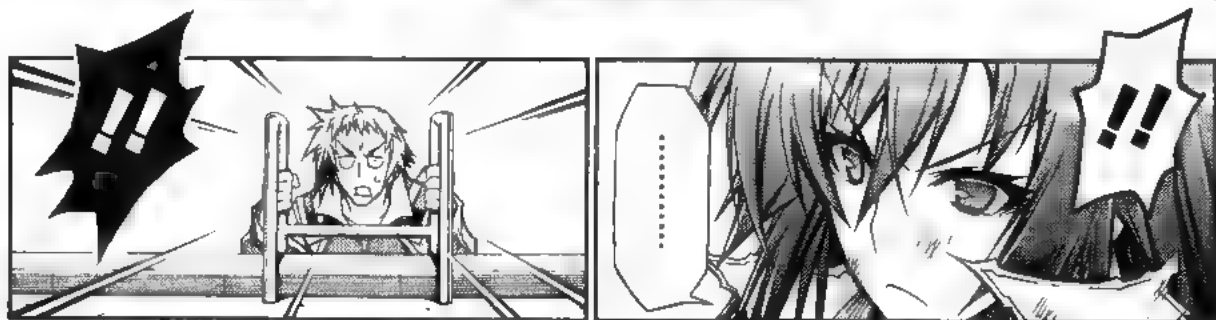
どうやら最初から最後まで
僕はきみの言うとおりに
動いただけの男だったようだ

感謝しか
ないけどさ！

めだかちゃん

僕からの
相談を

受け付けて
欲しい



このまま
戦い続けても
おそらく決着は
つかないだろう

どれだけ
叩き伏せられようと
僕は絶対に
負けを認めないし

だけどそれは
めだかちゃんだって
同じことだと思う

光栄な限り
だけれど――
まあ聞けよ

最後まで
全力でがんばる
つもりだぞ

少なくとも私は
貴様に勝つために

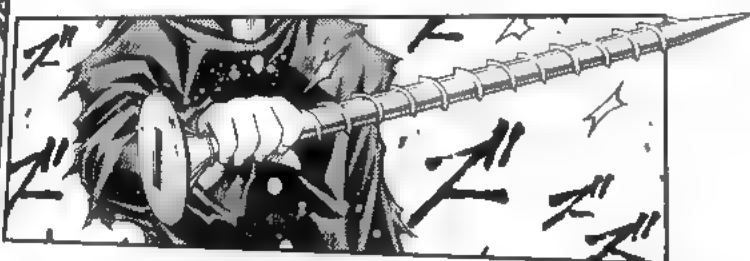
そんなことは
ない

そこで
相談だ

僕が
「大嘘憑き」を
捨ててまで
取ってきた過負荷

僕の
始まりの過負荷

「却本作り」を
避けずに受けて
くれないか？



なんだ
あれ……!?

ねじ
の螺子が……
伸び……!?

「大嘘憑き」を
すべて
現実を虚構にする
過負荷だとするなら

「却本作り」は
強さを弱さにする
過負荷だ

具体的には

この過負荷の被害を
受けた者はみいーん！
不完全と完全に同じになる

あの安心院さんが
封じざるを得なかった

曰くつきの
過負荷だぜ

肉体も精神も
技術も頭脳も才能も！
ぜーんぶ僕と同じ
弱さに落ちて

それでもきみの心が
折れないのなら

そのときこそ
僕は
負けを認めるよ

なによそれ…そんなの？

それはつまり
めだかちゃんが過負荷に
なっちゃうってことで！

それは
真黒くんや日之影くんが
一番警戒してた
パターンじゃない？

引っぱり上げるめだかちゃんに
対して
引き下げる球磨川ってことか！
まさに過負荷の象徴みてーな
過負荷だが！
しかし！

めだかちゃん！
そんな提案
聞くことねーよ！

どうせ何か
企んでるに
決まってる！

今までこいつが
してきたことを
忘れるな！！

黙れよ
善吉ちゃん

二歳からの
幼馴染か何か
知らないけど

きみこそ
忘れるな

めだかちゃんに
先に会ったのは

僕だ



さあ
決めてくれ
めだかちゃん

きみは僕の
過負荷を

受け止めて
くれるかい？



……
聞くまでも
ねーだろ

そんなこと

そうだね

聞くまでも
ない

聞くまでも
ないでしょ

うん

言うまでも
ない

24時間
365日

私は誰からの
相談でも
受け付けるし

どのような
気持ちでも
受け止める!!

凜

……..
愛してるぜ

めだかちゃん

そうか

もちろん
私も

愛しておるぞ

ありがとう

だけど

だけど

「僕を」
じゃなくて

「人を」
だろう







『私の
負けだ』

『許して
くれ』



勝
つ
た
!!





い
言
う
と
おも
思
っ
た
か
?

と
ど
も



く
ま
が
わ
球
磨
川

だ
け
ど
そ
れ
は

ベ
ー
ス
基
準
と
な
る
貴
様
が
ほ
ん
と
う
本
当
に
弱
か
っ
た
ら
の
話
だ

プ
ラ
ス
を
マ
イ
ナ
ス
に
す
る
過
負
荷
か

な
る
ほ
ど
恐
ろ
し
い

「
大
嘘
憑
き
」
よ
り
よ
っ
ぽ
ど
怖
い
な





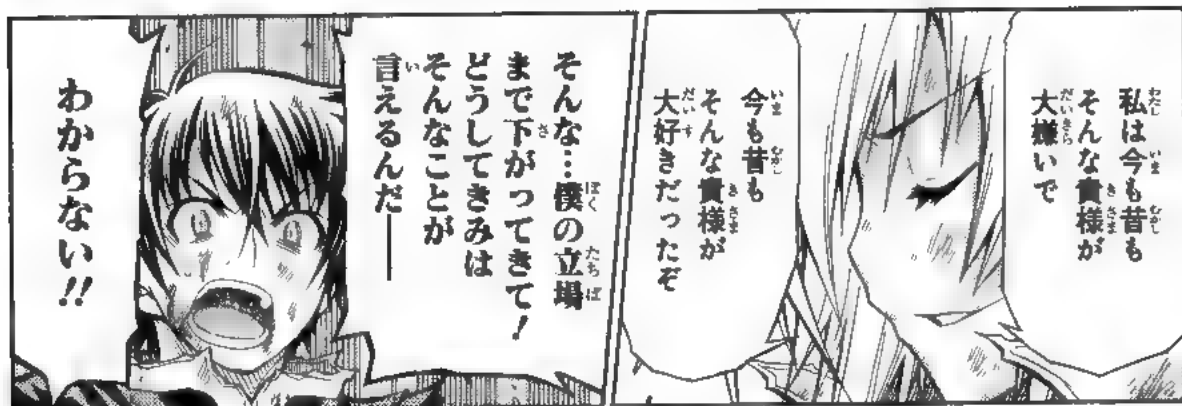
過負荷のために
戦い

過負荷を胸に
戦い

過負荷の立場に
立って戦う

そんな貴様が

そんな心が
弱いはずが
ないだろう



私は今も昔も
そんな貴様が
大嫌いで

今も昔も
そんな貴様が
大好きだったぞ

そんな…僕の立場
まで下がってきて！
どうしてきみは
そんなことが
言えるんだ――

わからない！！



わかってください
球磨川先輩

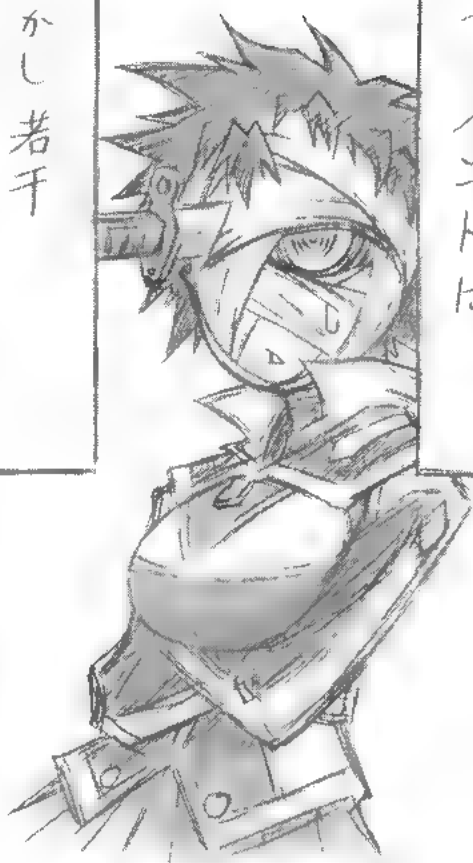
私は
あなたは
敵視こそすれ

下に見たことなど
ないのですよ

☞
とでも言うと思、たかっ、て
フュイントに

しかし若干
影響くまわりが出ているな

際とい賭けては
あ、そわけだ、



そんな
ばか
馬鹿な…

「却本作り」が
通じないだなんて…

僕と同じになって
なお！
心が折れないだなんて！

わかってください
球磨川先輩

あなたはもう
自分が思ってる
ほど

弱くもなければ
過負荷でも
ありませんよ

第91箱

「違いがあるとすれば」

しかし解せねえぜ
どうして球磨川の旦那は
「大嫌悪」を
捨てちまつたんだ？

確かにあの
「却本作り」は
身の毛もよだつような
スキルだが

単純にバトルに
勝ちたいなら
「大嫌悪」の方が
向いてたろうに

おい球磨川！
見えての通り
めだかちゃんには
お前の禁断の過負荷は
通じなかったぜ

さあ！
約束通り
負けを認めて
もらおうか！！



嫌だ

認めない

僕は
負けてなんか
いない。



てゆうか
そんな約束をした
覚えがないし

なに
言っただか
わかんないし！

さあ戦いを
続けようよ
めだかちゃん

僕ときみの！
三億年待ち焦がれた
決着だ！



ふざけんじゃねえ！
いい加減にしろよ
球磨川あ！

深く負けを
認めやがれ！

悪あがきにも
ほどがあるぞ
見苦しい！！

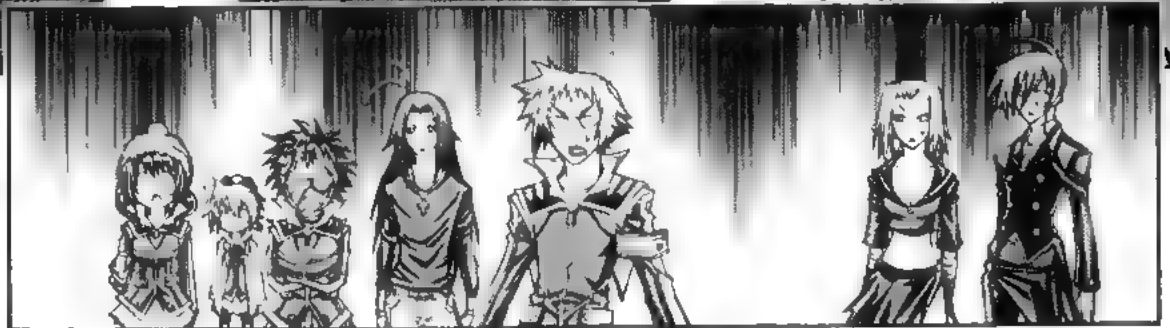
普吉





はははははは
はははははは

はははははは
はははははは!!



わかんねーよ…
今度ばかりは
めだかちゃんが本当に
わかんねえ！

今で勝ちで
いいじゃねえか！
何やってんだよ！
勝ちたくねーのかよ
めだかちゃんは…

一体あいつは
なんのために
戦っているんだよ！！

……
そうかね

俺は逆に
わかった気分だよ

球磨川の旦那が
「大陸憑き」を
捨てた理由が

黒神のおかげで
わかったぜ

あいつらは
ちゃんと戦って

ちゃんと
勝ちたいんだ

あるいは
ちゃんと戦って

ちゃんと
負けたいのさ



禍根どころか
骨も残さず
すつきりと
勝ちたいんだ

ルールや約束に
縛られず

運や偶然に
支配されず

この上なく
すつきりと
負けたいのさ



…だけど
これって

決着なんて
つかないんじゃないの？

心は折れなくとも
「却本作り」そのものは
効いてるんでしょう？

つまり
今のめだかちゃん
球磨川くんと
あらゆる面において
互角ってことなんだよね



だったら決着なんて
永遠に
つくはずがない

たとえ後先で
多少の差異が
生まれたところで

すぐにそんな誤差は
均されちゃうん
だから……

じゃあ…

このまま
引き分け？

引き分け……
だったら通算成績は
二勝一敗二分になるから
俺達の勝ちだ

だけどそれこそ
すつきりしねえ

後味の悪い
決着だぜ

それに
誰が何と言おうと

どんな形でもいいから

俺はめだかちゃんには
勝つて欲しい

肉体も精神も
技術も頭脳も才能も
まったく同じになつて

それでもなお
めだかちゃんと球磨川に
違いがあるとすれば――

やってる
やってる

おー

あらら……
黒神さんたら
なんだかボロボロじゃ
ありません？

どーせいつもの
露出癖でしょう

どれだけ脱ぐのが
好きなんですか
あの女は

しかし相変わらず
身体張ってるなあ
あいつは

ひやは
バケモン女は
手エ抜くってことを
知らないのかねえ

そういえば
聞いたか？

この戦いは
私達を守るための
戦いでも
あるらしいぞ

そうなの？

それはとっても
感動的ですねー
(棒読み)

でも確かに
苦戦は苦戦
みたいだな

このままだと
引き分け
というか

おいおい
それは困るぞー
一人だけ特別扱い
はズルいぜ

よし！
ここはどうだ
皆の衆

全員で声をそろえて
黒神に「あのセリフ」を
言ってやるといふのは

黒神のことだから
「今のこいつになら
負けてもいい」とか
思ってるじゃねーの？

「あのセリフ？」

ああ！
一度は言ってみよう
「あのセリフ」だな

よかろう！
黒神のことは呼び捨て！
一人称は「俺」
二人称は「お前」で
統一だぞ

せーの

そんな奴にやつ
負まけてんじゃねえぞ
黒神くろかみ
——っ！



お前^{まえ}を
倒^{たお}すのは

この俺^{おれ}だああ
あああつ!!



……?
誰だ あいつら…

箱庭学園の生徒
みたいだけど…

見たことない奴が
いっぱいいるぞ…?

おやおや—
「見たことない奴」
とは冷たいね

球磨川くん

その「見たことない奴」こそ
きみが抹殺しようとした
エリート集団

きみがクーデターを
起こしてまで
招集しようとした
登校免除組

異常選抜
特別特待生
箱庭学園十三組の
面々だというのに

けっ…

それがどうしたってんだ—
日之影先輩の応援には
もっといっぱい生徒が
集まってるだろ!

邪魔にならないように
控えてるだけで!

球磨川先輩のためなら
マイナス十三組だって
一人残らず集まるぜ!!



あいつらは
全員

めだかちゃんの
敵なんだよ



：違うんだよ
志布志

あいつらは

そういうのとは
違うんだ



都城先輩 行橋先輩
高千穂先輩
宗像先輩 — それに

「裏の六人」を含む
「十三人」や
対馬兄弟は
言うまでもなく

雲仙姉を始めとして
十三組生の連中は
全員めだかちゃんの
命を狙っていた



対立候補だった
鷹屋先輩も

剣道部の日向も



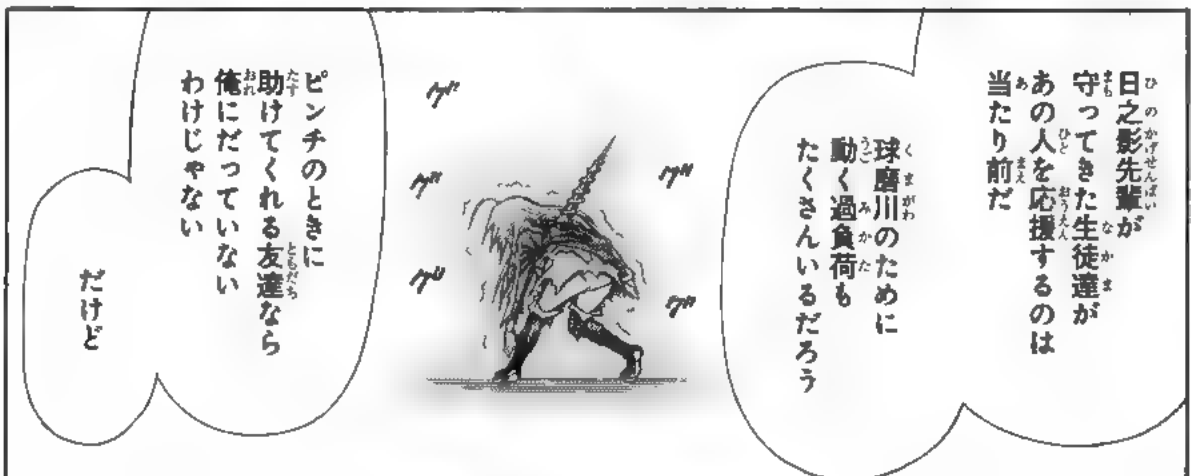
誰も彼も
木金コンビに
至るまで

みんなみんな
めだかちゃんの
敵なんだ



学園警察風紀委員会
とは今でも対立
しっぱなしだし

競泳部との
トラブルは
今や伝説だ



日の影先輩が
守ってきた生徒達が
あの人を応援するのは
当たり前だ

球磨川のために
動く過負荷も
たくさんいるだろう

ピンチのときに
助けてくれる友達なら
俺にだっていない
わけじゃない

だけど

ピンチのときに
敵が駆けつけてきて
くれるのは

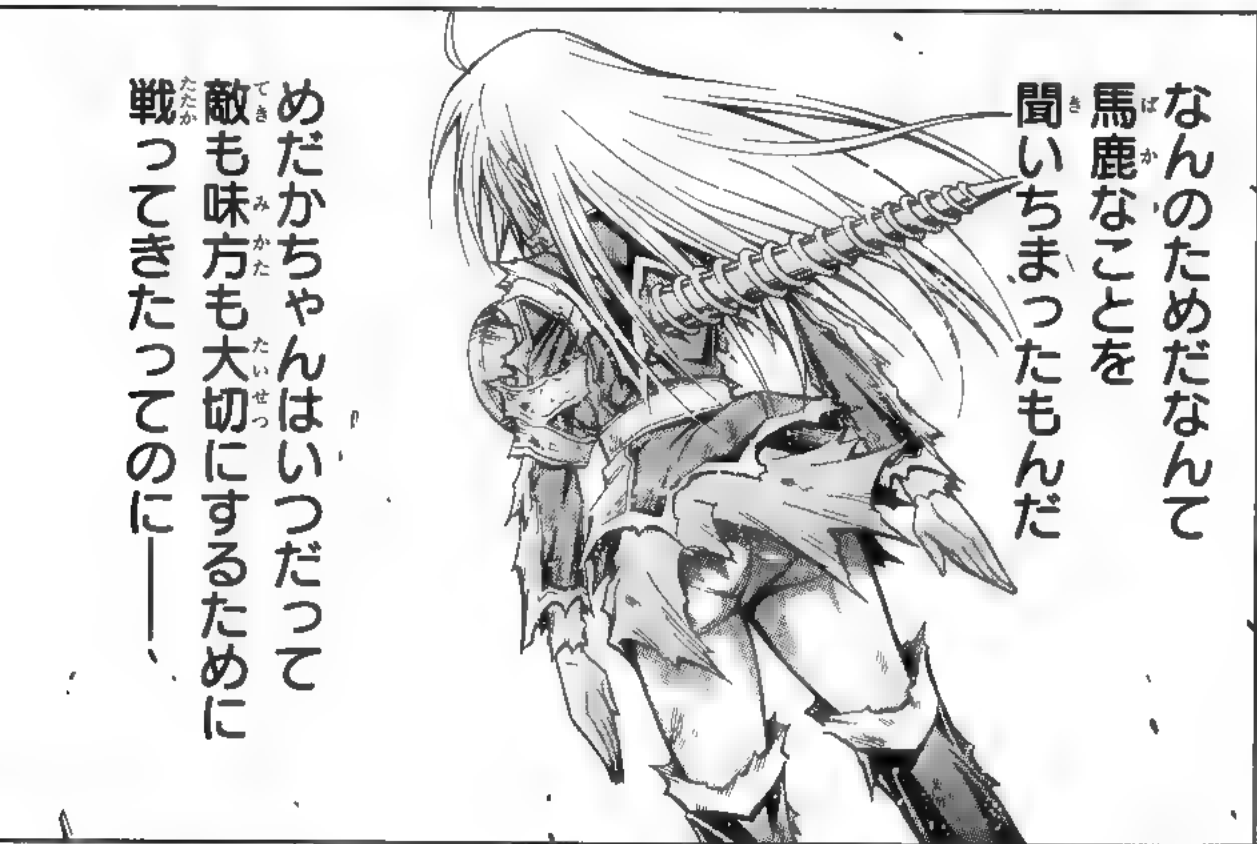
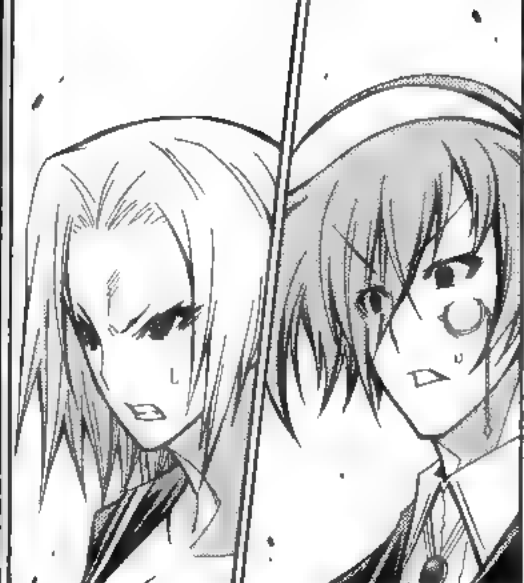
この世で
めだかちゃん
だけだ





目先の勝利に
がつちまっで
馳すらしい限りだぜ

おつても
俺が偉そうに
いえた立場じゃ
ねーけどな



なんのためだなんて
馬鹿なことを
聞いちゃったもんだ

めだかちゃんはいつだつて
敵も味方も大切に
戦ってきたつてのに――



ふっ

どうやら連中
間に合ってくれた
ようだね



…これもお前の
仕込みかよ

不知火ちゃん

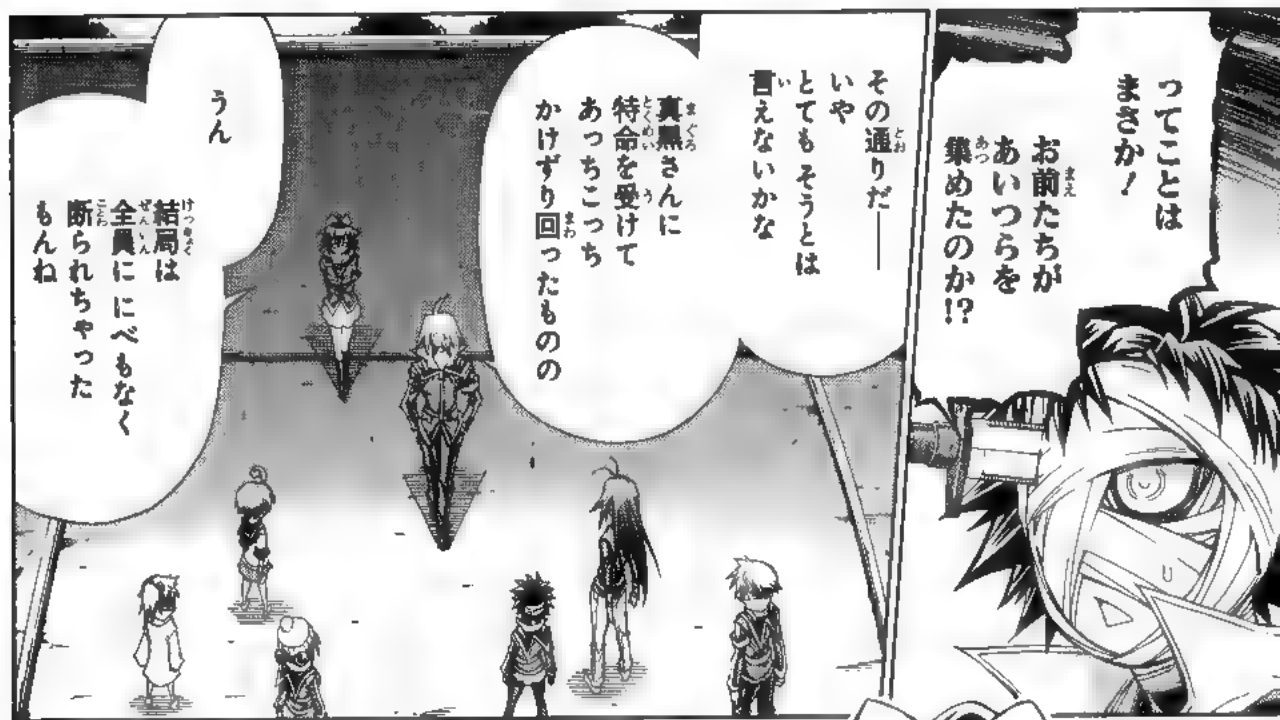
まさか

あたしの予定じゃ
後味が悪かろうと
引き分けが
落としどころでしたし

大体十三組生全員に
接触するなんて真似
あたしにはできませんよ



!?
高貴くん…
きかいじま
喜界島……!?



ってことは
まさか!
お前たちが
あいつらを
集めたのか!?

その通りだ—
いや
とてもそうとは
言えないかな

真黒さんに
特命を受けて
あっちこっち
かけずり回ったものの

うん

結局は
全員にべもなく
断られちゃった
もんね



そう—
たとえすべてが
同じになっても
めだかちゃんと球磨川くんは
同じじゃない



だからあの人達を
ああして集めたのは
あんなに
集めたのは
他の誰でもない
黒神さんなんだよ



めだかちゃん
と球磨川くんじゃあ

背負って
る人数が
違う!!



勝たせてもらおうぞ
球磨川

私は味方
のみならず

敵の思いも
背負っている



僕もいつか
あんな風に

きみのピンチに
駆けつけてきても
いいかな

めだかちゃん

もちろんだ



は
あ
這い上
がれ
く
ま
が
わ
み
せ
ぎ
球磨川
禊

き
さ
き
貴様に
た
す
助けら
れる
ひ
その日
を

わ
た
し
私
た
の
は
楽
し
み
に
ま
待
っ
て
い
る
!!

善ちゃん、て

戦、てるときは

あんなに格好いいのに

おい球磨川！

うん……

どうして観客になると

二つも雑魚度が

高まるんたろうね……？



おおおお
おおおつ！

ついにっ！
黒神がつ！

球磨川を
倒したあああつ！！



第92箱

「永遠に揃わないと言われていた」

陶元の螺子が
崩れていく――

球磨川の
「却本作り」の効果が
切れたんだ……

プラスとかマイナスとか――
そういうことじゃねえんだな
球磨川に同じにされたところで

黒神めだかは
黒神めだかつてわけだ

黒神――っ！

やっぱ強いな
お前は
畜生――っ！！

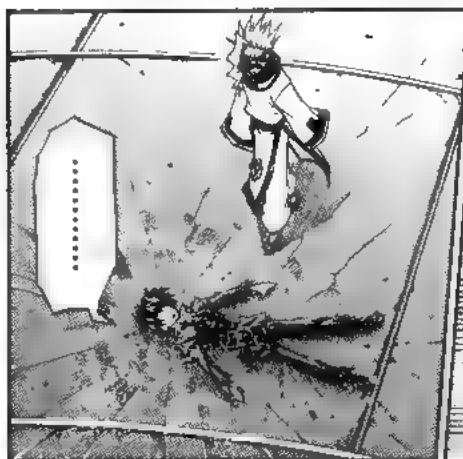
ポロボロの
今のお前になら
勝てそうな気が
するけど！

めでたい日だから
特別に見逃して
やるぜ！！

球磨川――っ！
お前もすごかった
ぞ――っ！

そんな
バケモン女相手に
よく戦った！

今度は俺達と
運合組んで
黒神にリベンジ
しようぜ！！





僕の
負けだよ

ああ
ちくしょう
悔しいなあ

幸せ
だなあ！



それでは会長戦は
黒神さまの勝利と
正式に認定致します！

つまり
通算成績は！

現生徒会側の
三勝一敗一分！

よって

本生徒会戦拳は
現生徒会側の勝利！

箱庭学園の
生徒会長は！

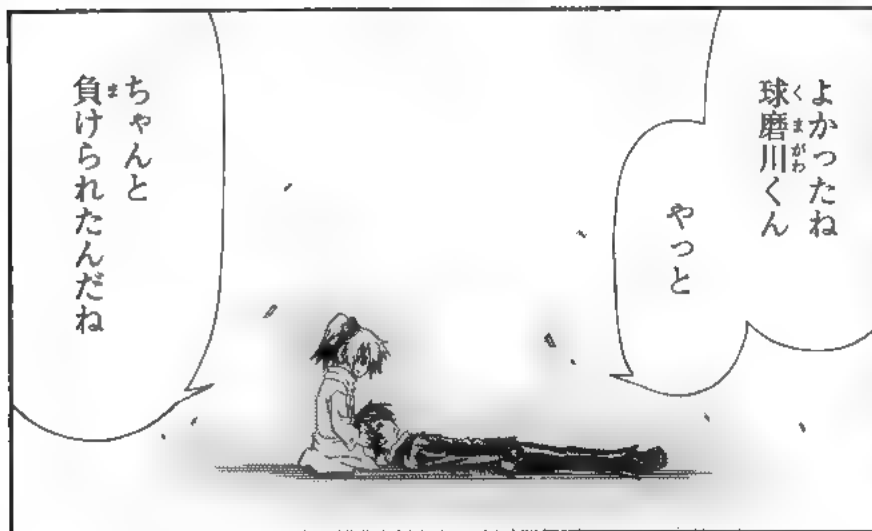


引き続き

黒神めだかさまに

務めていただくことに

相成りましたでございます！！





球磨川さん…



ああ…

蝦丸ちゃん
飛沫ちゃん

ごめんね

負けちゃった



でも大丈夫
心配しないで

これからどうなるか
わからないけれど
きみ達のことは

マイナス十三組の
みんなは僕が

身を挺してでも
守るから

身を挺してでも
守る…？

ケツ！

今更ふきけたこと
言ってんじゃねーぞ
あんたは



球磨川さんは
そんなことずつと
やってきたじゃ
ねえか

だから今度は
あたし達が

あんたを
守る番だ



つたく
勘弁してくれ
よな

誰よりも最低だと
思ってたあんたが

そんな風にいい奴に
なっちゃってよ

全くだす
困ったものですよ

あなたでも
改心できるってことが
判明した以上

私達がしないわけには
いかないじゃないですか



ま
いきなり変わるとか
無理だけどさ

あたし達も
負けたり勝ったり
しながら

ちよつとずつ
変わっていきうぜ

待つてよ

あなた達
どこに
行くつもり?

……だってわけじゃないですけど

戦拳戦で
負けちゃいました
からね

とりあえずは
箱庭学園から
出て行かないと……

それは書記戦の
時の約束で——
しかも無効に
なったはずでしょ

戦拳戦そのものは
生徒会長を決める
勝負でしか
なかったはずよ

そりやそうです
けど……

でもだからって
僕達がこのまま
居座るわけには
いかないでしょう？

教室もいつまでも
間借りしている
わけには
いきませんしね

そりや殊勝だね

だけど
うちのリーダーは
そう考えてない
みたいだよ

まあ折角だから
聞いていきなさいよ
驚くから！

長者原
二年生

戦拳が終わった
ばかりのタイミングに
恐縮だが

新たなる九十九代目の
生徒会長として
さっそく選挙管理委員会に
報告がある

報告？
はあ

なんで
ございましょうか？

生徒会執行部

副会長に

球磨川 稔を任命する

受理と手続きを
よろしく頼む



ええええええ
ええええええ

ええええええ
ええええっ!?

くっ…
黒神さま

正気で
こさいますか…?

?
何を驚く?

副会長と言え
私の対抗勢力だぞ

ならば球磨川以上の
適任は
他におるまい

もとより
副会長の不在から
今回の選挙は
始まったのだ

要するに
私の不始末だな

なんであれ
そこは大いに
反省しなければ
ならないだろう

ならば私は
副会長の任命を
もって

この一連の騒動に
ピリオドを打ちたい

会長
副会長

球磨川^{くまがわ}

貴様^{きさま}が
必要^{ひつよう}だ

助^{たす}けてくれ



……
貴様はさつき

わたしに会ったのは
善吉よりも
自分の方が
先だとも言ったな

しかし貴様は
私ではなく先に
善吉に会っておく
べきだったのだ

あの病院に
善吉がいたことを
知っていたなら
そうするべきだった

そうすれば善吉は
貴様に生きる意味を
教えてくれていた
だろう

そしてそれは
今からでも
遅くない

善吉——
貴様だって
そうしたい
はずだよな

貴様の気持ちは
私が一番わかって
おるぞ！

だから
いつの話を
してんだよ

なにもわかってねえ
相変わらず——
微塵も断られると
思っただけの
腹立たしいぜ

いいよ
わかった！

考えてみりや
そんな奴を
野放しにするよか
よっぽどマシだ

球磨川！

お前なんか
俺達の仲間にな
つちまえ！！

ありがとう

だけど
油断しないでね
めだかちゃん

僕はあくまで
マイナス
過負荷だから

いつかきみの
寝首をかくかも
しれないぜ



それでいい—
それがいい

私の寝首を
かくのが

貴様の一番大切な
仕事だ

ひよつとすると
ひよつとして…

え…?
つまり
これって…

そうだよ—あの!
永遠に終わらないと
言われていた…

かいちょう 会長・副会長・

かいけい 会計・書記・

しよむ 庶務！

くろかみ 黒神めだか

かいちょう 会長



ふくかいちょう 副会長



くまがわ 球磨川 稔

せいと 生徒会執行部が
ぜんいん 全員！

かいけい 会計

きかいじま 喜界島もがな



しよき 書記
あぐね 阿久根 高貴

しよむ 庶務

ひとよし 人吉善吉



そろ 揃ったああああ
あああつ！！



ぽん？

めだかちゃんのわがままに
付き合ってくれて
ありがとう
球磨川くん

お礼と言っちゃあ
なんだけど

マイナス十三組の教室は
僕が責任を持って
用意するよ



元々軍艦塔は
空き教室ばかり
なんだから

普通に頼んでくれたら
いくらでも提供して
あげただけだね

.....
敵わないな

真黒ちゃんは

本当に
格好いいよね

いやいや
僕は
格好悪いさ

めだかちゃんが
何と言おうと——
誰が何と言おうと

元より僕は
球磨川くんには
学園に残ってもらう
つもりだったんだから

だって
『遅れてくる
ふたり』と
戦うためには

きみの力が
不可欠なんだ
もの



.....!!

ば

くじらちゃん
がね

僕にだけは
教えてくれたんだ

きみがあの子に
見せた
リストの内容をね

真黒ちゃん…
じゃあ

きみは
ひよつとして……

そうだね——
僕は憶えているよ

めだかちゃんや
善吉くんはどうしてか
忘れてるみたいだけど

彼女のことを
僕は憶えている——

……どうやら
戦拳戦の決着は
ついたようですね

そして首尾よく
マイナス十三組の設立も
完了したようです

一時はどうなることかと
思いましたが——
全ては落ち着くところに
落ち着きましたかな

そして
フラスコ計画的に
言えば

戦拳戦では
めだかちゃんのデータが
いっぱいとれて万々歳って
感じかな？

不知火くん

理事長室

ま万々歳なのは
僕達も同じだけどさ

めだかちゃんが
球磨川くんの心を
救ってくれたおかげで

『却本作り』による
僕の封印も多少は
弱まったんだから

今までは
色んな奴の夢の中を
ちょろちょろする
だけだったけど

ようやくこうして
転校して
来れたぜ

いやいや
では

おふたりはこのまま
マイナス十三組に
入っていただくということ
よろしいですか？

んーどうだろう
それは遠慮して
おこうかな？

正直
今更マイナス十三組？
って感じだし

そもそも僕達は
別にマイナスじゃ
ないんだしね

劣等感なんて
くだらない――
優越感でも全然
あがれない

だったらそんな
差別は無意味極まる

要するに
プラスもマイナスも
僕達の前では

おしなべて
普通に
平等なんだよ

不知火 半纏

所属: 現在無所属
血液型: AB型
備考: 転校生

僕達は
悪平等だぜ。

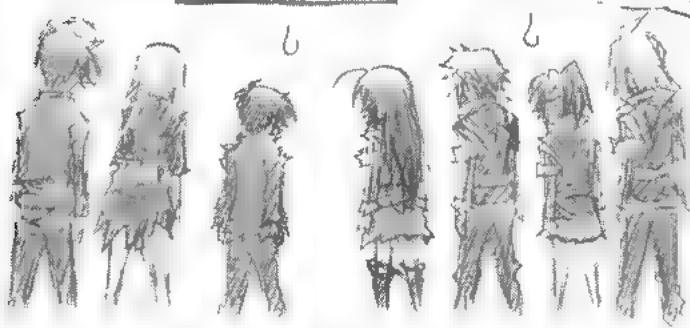
安心院 なじみ

所属: 現在無所属
血液型: AB型
備考: 転校生

いえ
お待ちください
黒神さま

転校生である球磨川さまが
正式に執行部へ
加入するためには
いくつかの条件をクリアして
いる必要があります

最後まで空気を読まない
選挙管理委員会



夏休みを長いと
思ったことなんて
一度もなかったけれど

生徒会戦争に明け暮れ
まったく休めなかった
今年の夏は
まるで永遠のようだった

だけどそれでも
時は流れ

九月になり
箱庭学園は
二期を迎えた

箱庭学園

だい はこ ひょうどう じんがいの
第93箱 「平等なだけの人外だよ」

……なんか
嘘みたいに平和に
なっちゃいましたね

マイナス十三組が
転校してきた
時には

存続さえ危ぶまれた
この学園だったのに

混乱が広がらずに
済んだのは
夏休みの間に決着を
つけられたからだろうね

だけど人吉くん！
まだ全てをやり遂げた
みたいな気分になっちゃあ
いけないよ

激しい戦いを
勝ち抜いた俺達には

日常に帰るといふ
一番大切な仕事が残っている――

『あ。』



だい はこ
第93箱

びょうどう じんがい
「平等なだけの人外だよ」





「それに
めだかちゃんの
隣に立つんだ」

…カツノ

まーいーだろ
別に

お前は
信用で
できないくらいが
丁度いい

「……………」
「敬語使えよ
善吉ちゃん」

「先輩だぜ」

「括弧つけずには
いられないよ」

…実際
信じられない
話だった

球磨川と

あの球磨川と—

こんな風に
話せる日が
来るなんて

うるせえ！



めだかちゃんの応援に
駆けつけた
十三組生達の姿は
あれ以降一人も
見かけていない

豊校義務のない彼らが
ああして集まったことは
やはり奇跡の類
だったのだろう

いや
奇跡というなら
同じく豊校義務のない
マイナス十三組の連中が

どうやら真面目に
授業を受けているらしい
ことの方が
奇跡かもしれない

入院中の江迎は
それを聞いて
驚いていたが

しかし
「私も早く学校に
行きたい」と
はにかんでいた

「真完全」
球磨川稜の
改心は

マイナス
過負荷の連中にとって
本当に希望と
なったようだった

今や
争いの火種は
どこにもなく

俺はただ
時の移ろいを
感じるばかり
だった――

そっか……

うそ
嘘みたいだけど
本当に

キ

俺たち
俺達の戦いは
終わったんだな

イ



「いや」

「まだ
終わってないよ
誓吉ちゃん」

「僕達の戦いは
これからだ」



「…見たところ
名瀬さんがいない
みたいけど」
「すぐに呼び戻した
方がいい」

「あの子の力は
まだ必要だ」

「あとは
高千穂くんと
飛沫ちゃん…」

「日之影くん…は
入院中だとしても」

「最低限雪仙くんと
鍋島さんには
声をかけて
おきたいかな…」

なにそれ…?
箱庭学園の
オールスター
じゃない…

そこまでして
捕えるべき敵が
まだどこかに
いるっていうの……?



うん——丁度今
球磨川くんとその話を
していたところ
だったのよ

遅れてくる
転校生

球磨川くんに匹敵する
ふたりの過負荷の話を

球磨川さんに匹敵する
ふたりの過負荷…?

それって志布志さんと
蝶ヶ崎くんのことじゃ
なかったんですか…?

「そんな風に
思っていたの?」

「高貴ちゃんらしい
勘違いだね」



「でもまあ
案外的を外しては
いないよ」

「あのふたりは
とても過負荷とは
言えないから」

「本人達は
そう確か」

「悪平等とか
名乗って
たっけな……」



「悪平等」……?

でも
どうして

今更
今更どうして
そんな連中が
出てくるんですか?

今更だから
だよ

「彼らは本来
転校して来られる
はずのない生徒
だったんだ」

「だって彼らの存在は」
「僕が「却本作り」と
「大嘘憑き」をダブルで
仕掛けて三年前に
封印したんだから」



……要するにその二人は
「球磨川くん」に匹敵する
過負荷」というよりは

「却本作り」で
「球磨川くん」に匹敵する
過負荷」になっていた
ということね

なっていた……?

つまり
まさか!

「そう——
そのまさかだよ」
「僕の「却本作り」が
無効化し」
「大嘘憑き」が
消失した今」

「彼らに施した封印は
たわんでいる」

「つまり彼らは既に
箱庭学園に転校して
きているはずなのさ」

「ゆえに僕達は
警戒しなければ
ならないんだ」

「この世でたった
ふたりきりの
悪平等が」

「いったい今
何を企んでいるのかを！」

いや別に
何も金ん
ないよん

だから
警戒しなくて
だいじょうぶ



やつほ——
人吉くん

生徒会戦争が
終わったっていつの
全然会いに来て
くれないから

僕から遊びに
来ちゃったよ

誰だ……？

いや！
なんだあんた！？

いったい
一体いつから
そこにいた！？



いつから
でもさ

僕はいつでも
好きなどきに
好きな場所に
いられるのさ

密室でも
宇宙でも

天国でも
地獄でも

夢の中でも
心の中でも
きみ達の中でもねえ

「腑罪証明」という
僕の持つささやかな
スキルでね

な…
そんな馬鹿な
ことが

「囚われしないで
善吉ちゃん」

「確かに「腑罪証明」は
彼女が好んで使う
スキルだけど」
「それを彼女の本質だと
思っちゃ駄目だ」

「そんなスキルは
彼女にとって」

「わすか
一京分の一に
過ぎないんだから」

……一京!?

え……………?

ふふっ

なんだい
なんだい

ついこないだまで
切った張ったを
していた癖に

カランッ

球磨川くんも人吉くんも
すっかり仲良くなっちゃって

よかった

やっとなかなか
仲直り
できたんだね

ほんとう
本当に
よかった

ちくしょう
この野郎

三年間も
待たせやがって……

「……」

「安心院さん
……」

……
離してくれよ

気持ち
悪い

はな
離れてくれ

たの
頼む



どうして
人間を！

そんな目で
見ることが
できるんだ！？



俺の質問に
全く答えてないぜ
あんた

なんなんだ
あんた

涙をためた
その目で一体

俺達を
どういう風に
見てやがる！？



あー
そっか

そう言えば

「欲視力」を
貸してたね
人吉くんには



ま
初めて会う人も
いるし

忘れてる
人も

うる覚えの人も
いるみたいだし

そうだね
自己紹介は
ちゃんとしようか

何事も最初が
肝心だからね

否

最初が人外だからと
言うべきかな？

僕は
安心院なじみ

この箱庭学園の
創設者で

びようとう
平等なだけの
じんがい
人外だよ



ちなみに
彼の彼は
不知火半纏

ただそこに
いるだけの
人外だ

二人合わせて
「悪平等」――

まあこれも
君達に合わせて
適当に名乗ってる
だけけどね

不知火……
不知火半纏……？

「じゃあまさかあいつ……
不知火家の「何か」か？」

精蔵学園の
創設者だつて……？

適当なことを
言うなよ
安心院さん

精蔵学園は
百年の歴史を持つ
伝統校だぞ

黒箱時代を
入れればその歴史は
二百年を超える！

僕のことは
親しみを込めて
安心院さんと
呼びなさい

そして

たかが
百年や二百年が
どうしたというんだい

一京分の一のスキル
「死延足」によって
永遠を生きている
僕にとって

そんな数字は
歴史じゃないな

……
!!



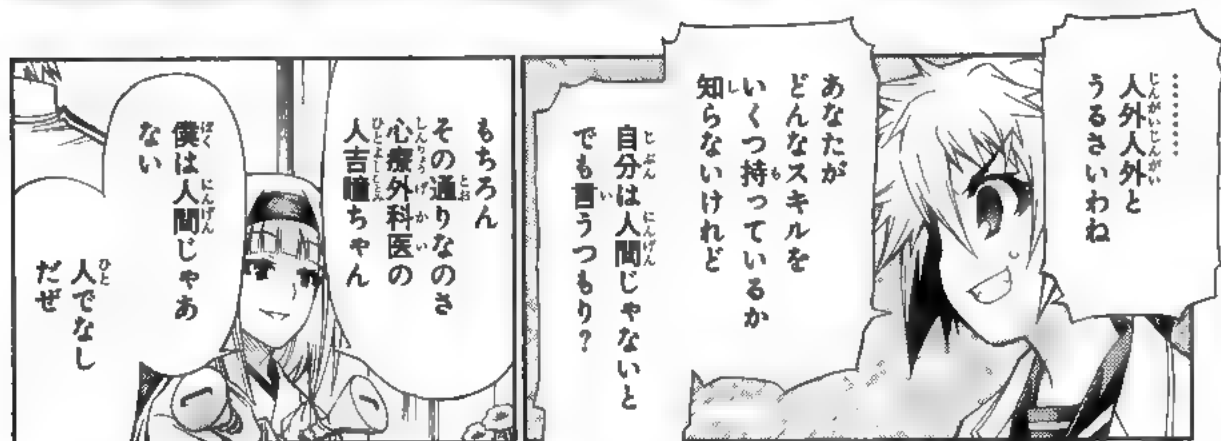
シヨックかな？
才能あふれる
柔道家にして
旧破壊臣の阿久根くん

僕みたいな人外が作った
学校に通っているのだ
という事実が

僕みたいな人外が作った
ルールで戦争を戦って
いたのだという事実が

僕みたいな人外の考えに
基づくフラスコ計画の
実験台にされている
事実がシヨックかな？

ごめんね？
驚かすつもりは
なかったんだよ



……
人外人外と
うるさいわね

あなたが
どんなスキルを
いくつ持っているか
知らないけれど

自分は人間じゃないと
でも言うつもり？

もちろん
その通りなのさ
心療外科医の
人吉瞳ちゃん

僕は人間じゃあ
ない

人でなし
だぜ



ハッ……！

だからなんだっ
つーんだよ
馬鹿馬鹿しい！

人外だか人でなしだか
知らねーが！
要するにお前達が
次の敵なんだろ！

いや
最後の敵だとい
うべきか！？

いいよわかった
戦ってやる！

かかって来いや
ノリイコール
悪平等！！

嫌だよ

だって

僕は
めだかちゃんには
勝てないもん



…つか誰も
勝てないだろ

まあゲームとか
スポーツとかなら
別だけれど

あの子に勝てる
奴なんて
この世にはいないよ

球磨川くん—
きみなら
分かるよね

その理由が



「…わからないよ」

「完成」
という

「すべてのスキルを
昇華するスキル」を
持っているからとでも
言うつもりかい？」

違うぜ

そんなのは
瑣末なことだ

僕の「京分の」には
「スキルを無効化する
スキル」—
「無効歴」があるけれど

それを使っても
僕は彼女には
勝てないよ

めだかちゃんには
誰も勝てない理由

それはこの世が
週刊少年ジャンプ
だとしたら

彼女は
主人公だから
だよ



……
もちろん
比喩だけだね

でもまー
千年に一人くらい
いるんだぜ

なんていうのかな
ああいう
理屈じゃなく

勝者であるとか
決めつけられた
主人公体質の
人間が



だから僕はむしろ
白旗を上げに
来たのさ

勝てない相手と
喧嘩するほど
僕は人間じゃ
ないからね

いやいやー
フラスコ計画は
僕の悲願でね

諦めるわけには
いかないんだ

カラッ

だから



それは
つまり…

箱庭学園は

フラスコ計画を
完全に放棄する
ということ…?



僕はめだかちゃんの
卒業を待つことに
したんだ

フラスコ計画は
あの子がいなく
なった後

のんびりと再開
することにした

…卒……業っ!?

カラシ

黒神めだかという
稀代の実験台を
失うのは惜しいけど

まあ選挙編で
データは十分に
採取できたようだしね

おめでとう!
きみ達は見事に
学園の平和を
守りきったよ

ほんのたったの
ちよつぷり
三年ほどだけど
誇るべき戦果だ

子ども達は
みんなきみ達に
憧れるよ!

主人公と
その仲間達
かっこいい!

コロン

きみ達の戦いは
これまでだ

あとはまー
日常に帰って
ラブコメとか
ギャグとか
スポーツとか
ミステリとか
色々迷走して

だらだらと連載を
引き延ばした挙句

ぐだぐだの最終回を
迎えてくれたまえ

カラシ

ラスボスなんて
まっぴらだぜ

カラ
僕は三年間
その辺で

ケータイでも
いじってるよ

カラ

…なるほど
箱庭学園の
創設者にして
フラスコ計画の立案者

最後の敵と
いうよりは
最初の敵と
いうべきだが

安心院なじみ—
聞いたこともない
名前だな

俺も
初耳だよ…

だけどな

あいつは
本気でやばいぜ
めだかちゃん

「欲視力」で覗いた
あいつの視界の
中では

俺や
球磨川と
そこら辺の消しゴムが
同じ値打ちしか
持っていないかった

上から目線とか
見下してるとか
そういう次元じゃねえ

あの女マジで
人間と風景の区別が
ついてねえ!!

アブノーマル
異常者ならば
優越感!
過負荷ならば
劣等感!

それぞれ歪んでは
いても連中はまだ
人間を見ていたぜ

だけど
あいつは違う!

人間を平等にしか
見ていない!!

…でもなんで
そんな人外が

「人間を完成させる」
ためのフラスコ計画を
立案したのかな……

?

「…どうする気だい
めだかちゃん」
「安心院さんの
言う通り」

「三年後のことなんて
気にせず」
「現状に満足し」

「このまま日常編に
帰って」
「最終回を
迎えるかい？」

愚問だな球磨川

そもそも
日常を脱した
覚えはないし

私が卒業した後の
ことくらい
入学する前から
憂いておった

地下研究所を
潰すことで
過去を粉砕し

マイナス十三組に
勝利すること
現在を守った
私達だ

ならば最後に
未来を作ろう
ではないか！

そのための秘策は
既にある！！

ぬーんっ

携帯いじり。

カ
タ
カ
タ
カ
タ

カ
タ
カ
タ
カ
タ

カ
タ
カ
タ
カ
タ

生徒会主催の
学園見学会

中学生を対象とした
体験入学の
お知らせ



第94箱 「黒神めだかの後継者作り」

秘策とかいうから
どんな奇天烈なことを
目論んでるのかと
思ってしまったけど

めだかちゃんにしては
真つ当なアイディアで
逆にびっくりしましたね

カラ

カラ

いや俺は
いいと思うよ—
猫美さん然り
雲仙くん然り

カラ

後進を育てるといふのは
図抜けた人間にとって
避けられない義務
なんだから

だから
きつかけは
ともかくとして

自分の才能に無自覚な
めだかさんが教育に
力を入れてくれることが
俺は素直に嬉しいよ

カツ…しかし
役員を揃えるだけで
半年かかる生徒会
ですからね

後継者を
見つけるのも
生半じゃないでしょう

しかも急な告知でしたし
今日はいったい何人集まって
くれたことやら—

≠



だい 第94箱 はこ

くろがみ こうけいしゃづく
「黒神めだかの後継者作り」



…あれ？

結構
来てる…？

……
というか

五百人
は
来てないかい
これ？

ぜんぶで
六百三十二人
来てるよ

開始までまだ
五分あるから
もうちょっと
増えるかも

まあ
半年前と今とじゃ
状況が違うってこと
なんだろうね

役員として
黒神さんの
下につくのと

それに
意味合いも
違うよ

数年後に後継者として
黒神さんの跡を継ぐのと
じゃあ随分ね

はあ……
いやでも
それにしたって
集まり過ぎだろ

改めてやっぱ
すげーんだな
めだかちゃんの
影響力って

しかも
人数だけじゃ
ない

六百人中には
なんというか

かなりな人材が
紛れ込んでるぞ

酒巻中学の
「群集軍隊」
鴨池多々狼

聖康学園中等部の
「怪才色剣美」
羽衣唯無

結界中学の
「閉じ込め系」
曾於清希

権舎第二中学の
「罪悪漢」
荒生田くるみ

ざっと眺めた
だけでも
この有様だよ



「…もともと」
「そういう」
名の知れた子達は
やっぱり少数派で」

「大半は」
一般的な中学生って
感じかな」



「めだちゃん見たさの
怖いもの見たさって
いうか」

「面白半分の
冷やかしも
相当数いるん
だろうね」



「そういえば」
阿久根さん見たさの
中学生も結構いたよ

阿久根さんも結構
有名なんだね！

あ…いや
別に
そんなことは…

俺の場合
中学生に有名なのは
悪評の方
だからなあ…

変な奴が
来てなきやあ
いいけど…



つか
球磨川！
お前なんで
学ランに
戻ってるんだ？

「あはは」
「こないだは
人吉先生の顔を立た
ただだよ」

「だって
善吉ちゃんと
ベアルックとか
仲いいみたいで
すっげー嫌じゃん」

ほう。



いーのかよ
めだかちゃん
この副会長
学ランで
通す気だぞ

え？

別に
よからう

黒いし

黒ければ
いいんだ！



やれやれ！
お母さんが
言ってた通り
「却本作り」なんて
使うまでもなく
めだかちゃんと
球磨川には
意外と通じる
所があるのかな

二人が同じ組織に
属するなんて
どうなることかと
思ったけど

この分だと
案外うまく
やっていけたり
するのかな



さておき
まあ盛況なのは
よいことだが

しかし冷やかashiで
参加されるのも
困りものだ

仕方あるまい——
最初にはつきりと
所信表明をし

面白半分の者には
帰ってもらおう
としよう



『えー』

『モブキャラのみなさん
こんにちは。』















はあーあ

生徒会主催の行事が
珍しくうまくいきそう
だったのに

学生会執行部

終わってみれば
いつも以上に
ぐだぐだに
なっちまったな
どーにも！



「そうだね」
「残念だね」

「まあ誰のせいって
わけでも
ないけどさ」

お前のせいに
決まってるだろうが
この野郎！！

「おいおい 善吉ちゃん
こういう時に
個人を責めるなよ」

「雰囲気
が悪くなるだろ？」

ならねえよ！
今以上に雰囲気
が悪くなる方法なんか
現世にはねえよ！！



めだかさんは
どうしてるかな？

結局 喧嘩ちゃんに
来てもらって
乗権者の心のケアに
あたってるよ

まあ 幸い
みんな大したこと
なさそうなんだけど

そうか
それはなにより

じゃあ

次はこつちを
どうするかだな



球磨川さんの
「残酷な選別」から
生き残った五名

とりあえず
第一回目のプログラムには
この子達に参加してもらう
ことになるんだけれど

……
五人はさすがに
少な過ぎるよね

しかもなんだか
見るからに
際物という感じの
五人だし……



「高貴ちゃん
人を外見で
判断しちゃ
いけないよ」

「それに僕には
五人とも真面目そうな
いい子に見えるけどな」

……まあ

あんたから見ても
不真面目そうな悪い子って
あまりいないでしょうよね……

……でも
しよーがないんじゃない？

一回目から
何もかもうまくは
いかないよ



二回目三回目と――
これからずっと
続けていかなくちや
いけないことなんだから

最初が
少人数なのは

むしろお互いにとって
よかったんじゃないのかな

そうそう

むしろきみ達が
彼女達から
学ばせてもらうくらいの
気持ちで臨まないとい
けないんだぜ

!?

やってみせ

言って聞かせて
させてみて

褒めてやらねば
人は動かじ――

人材を育てるって
いうのはさように
簡単なことじゃ
ないんだぜ

.....っ！

安心院なじみっ
.....!!

そうだよー

だけど
僕のことは
親しみを込めて

安心院さんと
呼びなさい

「封印が緩んだ途端
神出鬼没だね」

「何をしに
来たんだい
安心院さん？」

いや
褒めに来たんだぜ
めだかちゃん
卒業を待つという
僕のスタンスに対して

次世代を
育成するというのは
最高の返し手だからね

カツ！

だから
邪魔をしに
来たってのか？

だつたら生憎だな！
邪魔をされるまでもなく
今まさに邪魔に
乗り上げてるところだぜ

変な自慢をされなくとも
邪魔なんかないさ

僕は自分が感心した
出来事の邪魔は
絶対にしないんだ

在学中の三年間は
自分が学園を守る

卒業後の三年間は
育てた次世代が
学園を守る

そしてその次の三年は
次世代が育てた次世代が
学園を守る

それを繰り返せば
学園の平和は
永遠に続く
というわけだ

永遠を生きる僕も
それをされると
打つ手がない

『後進を育てる
システム作り』！

実現できたら大したものだ—
黒神生徒会長にとって
目安箱の設置に並ぶ
最大の仕事になるだろうね

僕は心から
応援するよ

ん？「欲視力」を
使おうとしてるなら
無駄だね人吉くん

一京分の一のスキル
「手の舞足の踏むところを
知らず」で

そのスキルは
僕には通じない
ように
工作したもんね

だから
貸し剥がしなんて
しないから
安心してね

僕は
利恵さえ
もらえたら
それでいい

『実現できたら
大したもの』
ですか

なんだか
いかにも

実現は不可能だと
言いたげですね
安心院さん

いや
実現は可能だと
信じてるよ

めだかちゃんなら
きっとできる！

それに
成功してくれたら
僕は本当に
嬉しいんだ

だって

くろかみ
黒神めだかの
こうけいしゃづく
後継者作り



それは
かんぜん
完全なる人間の
さくせい もくてき
作成を目的とする

けいかく
フラスコ計画
そのものだもん

ぼく
だから僕は心から
おうえん
応援するよ

ねんご
三年後を
まつつもり
だったけれど

まえ
その前にきみ達が
たから
きみ達の手で
けいかく
フラスコ計画を
かんせい
完成させてくれるなら

もちろん
いうことは
ないんだから

ちが
…違う

めだかちゃんが
やろうとしてるのは
そういうことじゃ
ねえよ

めだかちゃんの志を
フラスコ計画なんかと
いっしょ
一緒にするな

ふーん

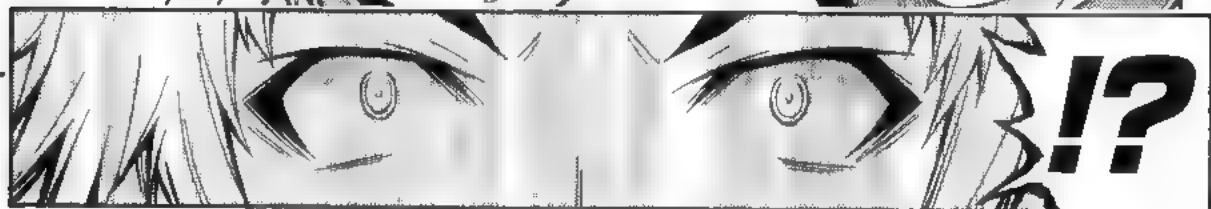
ちが
違うんだ

だったら
構わないよね？



のこ
残った五人の中学生に
悪平等が混ざってるとけど

だったら全然
平気だよね？



金んではないけど
托卵ではいる――

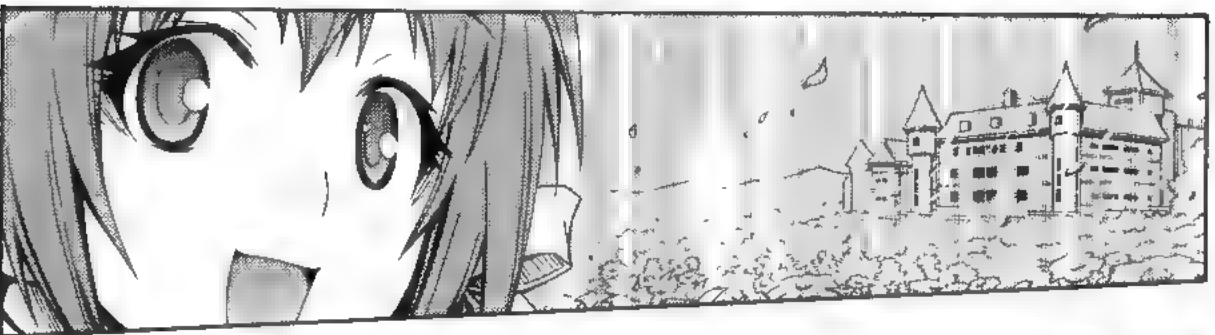
とか言っつて！

気をつけてね？
どの子が悪平等かを
見抜けなければ

きみ達はフラスコ計画の
後継者を作っちゃうぜ



「ひとりでもいるのなら」



第一面接会場
(面接官・
喜界島もがな)

第一面接会場

棺桶中学
三年二組
喜々津嬢々でーす

よろしく
お願いしまーす

あーすんません
ちよつとだけ
待ってください！

もーちよつとで
キリのいいとこまで
いけますんで！

ドウドウ

ドウツ

いやでも技術の進歩には
ひつくりしますわー！
まるで真実だもん
このCG！

キラ

蜘蛛工コンクール
最優秀賞

陸上競技
砲丸投げ
全国一位

トレジャヤー
新人漫画賞入選

中学生相撲大会
優勝

ドイツ語検定
満点

エトセトラ
エトセトラ

答えてくれるかな
喜々津さん

きみは
果たして

何をしたい
どういう子
なのかな？

きみが一体
何が得意で
何をしたい子なのか
全然わからないね

とってもすごい
経歴だけど
あまりにバラエティに
富み過ぎて
まとまりがなく



何がしたいとか
そーゆーのは
ないんですよ

私は

ただいっそーな
課題があれば
つついチャレンジして
みたくなるって
だけでして♪



今回箱庭学園の
体験入学に申し込んだのも
そういうわけでした

ポケモン女こと
黒神めだかの
後継者になるとか

さいつこうに
難易度ハードで
わくわくするじゃ
ないですか！

：そんな
動機ともいえない
ような動機で

よくもこれだけの
成果を残してきたね



あはは
まーそこは単純に
才能って奴ですかね？

私って努力しなくても
大抵のことはできちゃうんで
人生がすつけー
つまらないんですよ

だから色んな
チャレンジをして
わくわくしたいん
です！

雲仙先輩と同じ
万能型のおぶの「まる」って
感じなのかな
でもこの子
雲仙先輩とは
だいぶん違う……

才能か

まああたしも
才能だけで
水泳やってるから

きみの言うことは
わからなくも
ないかな

「ただ、
覚えておく
といいよ」

「この
学園では」

「才能なんて
何の意味も
持たない」

「はい」



「第二面接会場
(面接官・
阿久根高貴)」

「潜水艦中学
二年五組
鰐塚処理さん——」

「体験入学への
志望動機は
「自分の向上」

「趣味は読書で
現在女子バレー部の
セッターを務める……」

「よろしくね」

「ああ！俺は
書記の阿久根高貴」

「経歴的には
一般的な女子中学生と
いう感じだけど」

「なんだか綺麗過ぎて
偽装の匂いがあるな
この履歴書……」

「書き慣れているはずの
自分の住所や経歴を書く時は
手癖や慣れから字が崩れる
ものだが、それが無い」

「それにA4二枚分の文章を
手書きすれば平均で五文字程度の
誤字脱字が生じるものだけど」

「それが二文字もないのは
用意された経歴を
ただ書き写しただけだから……？」

というか鯛塚さん——
さつきから一言も
喋らないけど

ひょっとして緊張
しているのかな？

だけど無言じゃあ
面接にならないよ？
何か自己アピール
してくれないかい？

.....

無言なのは
呆れて声も出ない
からであります

阿久根高貴殿

かつて
破壊臣と名を馳せた
あなたの凋落振りに

!!

.....

自分は黒神めだかよりも
あなたに憧れて
此度の体験入学を
志望したのであります

なのに
なんでありますか
その腑抜けた
佇まいは

鯛島猫美に牙を
抜かれたという噂はまさか
本当なのでありますか？

今でもあなたを
最強だと信じている
自分は

間違っているの
ありませんか？

……いや別に
間違っちゃいないさ

さすがに最強とまでは
言わないけど

今でも俺は
大抵の奴よりは
強いつもりだよ

ただし
そんな強さを
ものともしない
弱い連中が

ここには
うじやうじや
いるだけさ

だから
憶えておくと
いい

この学園
では

強さなんて
何の意味も
持たない

第三面接会場
(面接官・
球磨川護)

一柵女子中
三年一組
財部依真ですっ！

箱庭学園の
生徒会を体験できて
感激ですっ！

うわー嬉しいなあ！
今までがんばってきた
甲斐がありました！
自分が今ここにることが
信じられませんか！



うっせえ
だま
黙れカネ

すみません
私何か失礼なこと
言っちゃいましたか？

えがお
ためーの笑顔こそ
キミなんだよ
せかいじゅう
世界中の女子からも
嫌われて死ぬ

くまがわ
ごめんなさい球磨川さん！
私すぐ調子に乗って
喋り過ぎちゃうんです！

「……
そうだね」
「きみは」

「喋り方には
気をつけたほうが
いいかもね」

ためーこそ
捲つてくんじや
ねーよ

はい！
すみません！

ほんね たてまえ
これでも本音と建前の
線引きはしている
つもりですが！

ことばづか
それでも言葉遣いが
乱れがちで困って
いますので！

どうぞ
ご指導ご鞭撻のほど
よろしく願います！

「……」
「じゃあ早速ひとつ
教えてあげるよ」

「この学園
では」

ことば
「言葉なんて
なん
何の意味も
持たないぜ」

何わけわかんねー
さーと書てんだ
そのカネ

はいっ！

早速の教鞭
ありがたく頂戴
いたしますっ！

第四面接会場
(面接官・
人吉善吉)

缶詰中学
三年D組
与次郎次郎です

えーっと…
その…はいっ

不束者ですが…
不束者？
不屈者？
えっと！

不束者ですが
よろしくお願
いします

おう

よろしくな
与次郎

なーんか変な奴ばつかの中
俺は一番まともそうな子に
あたつてラッキーだぜ

阿久根先輩と
めだかちゃんには
同情するよなーマジで！

あの…すみません
人吉さん

与次郎と呼ぶのは
やめてもらっても
いいでしょうか

ん？
ああ悪い

そうだな
男の名前みたい
だもんな

いえ与次郎次郎というのは
人間界で使っている
仮の名前で私の本名は

ツギハギスタ・SS・
ルビーサファイア5世
といいます

「同近でマジカル☆
ワンダーツギハ」と言えば
おわかりでしょうか



右肩に座っているこの子が
バートナーの妖精・ダイヤンです！
あつごめんなさいこの子は
一般の方には見えないんですた

でもダイヤンに会えたおかげで私は
本当の自分になれたんです——
一番仲のいい親友なんです！

今人間界は魔界の
大帝王ワルゴルドに
狙われていてダイヤンは私に
それを教えてくれましたた

私は天界の選ばれし戦士なのですが
覚醒が遅かったためまだ本来の力が
発揮できません——だから修行のために
今回の体験入学を志望したんです！

…ふうん
そういう設定
なんだあ

俺の相手は

いつもこんな
女子ばかり
だあ！！



設定じゃ
ありませんっ！

…俺の設定
はよ

「ポケモン女」の
幼馴染で—
普通の奴で
努力家で

突出した才能や
特徴はないけれど

がんばって
好きな女の隣に
いようとすると
健康な男子って
感じだった

……
だった？

ああ—
そんな設定は
この夏に吹っつんだぜ

「欲視力」なんて
わけのわからねー異能を
無理矢理眼球に
植え付けられてよ

だから俺の人生は
これから先！
何をやつても
どんなことをしても

この特別な目の
おかげでことになる
真に頑張り甲斐のない
人生になっちまった

最初はその便利さに
はしゃいだけれど
すぐに気付いたぜ

俺の人生は台無しに
引っ繰り返ちまったん
だって

自分が経験して
初めてわかる
ことだが

どんな奴であろうと
どんな人生であろうと

そんなものは
いとも簡単に
引っ繰り返るんだ

わかるかい
ワンダーツギハ

この学園
では

設定なんて
何の意味も
持たないんだ

……
設定じゃ
ないのに……



第五面接会場
(面接官・
黒神めだか)

御船製作所で
去年発明されました
自律式人型アンドロイド
23番試作機
「ホープ」

戸籍名
希望が丘水晶です

試用期間中の現在は
聖カールゴ女学院一年梅組に
籍を置いております

去年発明
……

つまり貴様は
ロボットか

ウィ

機械的に言えば
そういうことです

後でマニュアルを
お渡ししますので
ご熟読ください

試験運用として
外見年齢から
ふさわしいと思われる
中学校に通っていました

しかし周囲の環境に
うまく馴染めず
悪戦苦闘しておりました

そんな折
箱庭学園の
体験入学の知らせを
受信いたしました

応募させていただいた
次第でございます

…中学校で
馴染めなかった
貴様が

どうして高校ならば
馴染めると思った？

機械的な受け答えに
なりますが

高校だったら
馴染めると思った
わけではありません

ただデータ検索の結果
ここが一番適当だと
判断しました

文字通りの
思考機械である私が

心を学ぶ
場所として

箱庭学園ほど
相応しい環境は
ないと



心か

そうだな

それこそが
この学園で
一番大切な
意味を持つ

ウイイイッ



そんな感じで
全員面接を
終えたわけだけど

どうだった
みんな？

怪しい子は
いた？



喜々津さんは
怪しいといえ
怪しいけど

どうかな

案外ふつーに
今時の中学生って
気もするし

……まあ
飼塚さんも
そんな感じかな

ああ
俺の与次郎も

怪しいけれど
疑わしいとまでは
言えないぜ

「財部さんは
大丈夫だと
思います」

うむ！
希望が丘候補生も
依頼できる！

ああ
うん

球磨川くんと
めだかちゃんは
黙っててくれるかな？

結局は五人のうち
誰が悪平等かは
不明のままか

まあちよつと
話したくらいで
見抜けるはずも
ねーよなあ

どうしますか
めだかさん？

あの五人の中の
誰が悪平等なのか
わからない以上

今回の育成プログラムは
中止するという手も
ありますが――

ひとりのために
四人に泣いて
もらうか

それこそ
悪平等な発想だな

めだかちゃん
……

体験入学は――
生徒会は予定通り
執行する

たとえ五人中四人までが
悪平等であつたところで
それは次世代の育成を
中止する理由には
ならない

箱庭学園の未来を
思う人間が
ひとりでも
いるのなら

我々はその気持ちを守らなくてはならない！

冥

……まあ
確かに

あれだけ大々的に
告知しとして
今更中止ってのも
ないよな

ただ！

不安がないといえは
嘘になるぜ

めだかちゃんは
安心院なじみという
彼女と直接会っではない

否！
あの女のほうが
明らかにめだかちゃんとの
直接接触を避けている

だから雲仙先輩や
都城先輩
球磨川を相手取った時と
違つて

めだかちゃんは今回

愚平等の危険度を
いまいち理解してないんじゃないのか……？

だい
じ
せ
かい
たい
せん
いら
い
第二世界大戦以来
ひさ
ぶ
久し振りにこの学園に
かえ
帰ってきたけれど

しかし
世紀を跨いだくらいで
変われば変わるものだな

いや

おと
ろ
衰えるだけ
おと
ろ
衰えたと
いうべきだぜ

……衰えたとすれば
それは黒神めだかの
責任じゃないですか？

悪平等

なに
おんな
何せあの女は
生徒会長として

はん
とし
ここ半年の間に
ずい
ぶん
随分な改革を行った
そうですから

はく
やあ財部
首尾は如何かな？

せい
と
かい
生徒会の面接は
うまく切り抜けた
かい？

ええ
もちろんですよ

悪平等

五人のうち
誰も

ノットイコール
正体を
見抜かれる事は
ありませんでした





.....
それは重畳

まあ
君達の正体を
見抜くなんて

僕じゃなきや
無理だろうけどね



いやしかし
めだかちゃんに
聞いてみたいもんだぜ

五人中五人までが
暴平等だった場合
それでも彼女は生徒会を
執行するのかな

敵も味方もいない
守るべき者さえ
いない戦いを

彼女はいつたい
どうやって
戦い抜くのだろう



とちやああの
球磨川やて家
々々やつかも
ぶや敷したいんやすけど
いいですかー

ところであの
球磨川という方に
後輩としてご挨拶
したいんですが

構わないでしょうか
安心院さん

んん？
財部は僕にしては
好戦的だなあ

んーまあ
球磨川くんなら
いいかな

適当に
可愛がつて
もらいなさい

むーん

ところで
球磨川くん

なんで
あたしの仕立て
あげた制服
着てないのかなー？

「あ… いやもの
勿体なくて…」

「…と…と…」

「将来めいかちゃんを
庇て死ぬとき
着る予定でして…」

ススス



第96箱 「僕の仕事だからね」



「パンツ？」
「財部ちゃんのパンツ？」

「見せてくれるの？」
「財部ちゃんが？」

「見たい
見たい！」

「見せて
見せて!!」



「お前、楽間とか
感じぬのかよ
何喰いついてんだ」

「この先の展開が
あつたのに台無し
じゃねーか」

「どんだけ女子中学生の
パンツが見たいんだよ
こいつは」

「うわあ
嬉しいなあ」

「球磨川せんばいなら
きつと見てくれると
思っていました」

「球磨川くんには
色仕掛けが
有効だよ」

「あの子は
あれで結構
男の子なんだ」

「安心院さんから
聞いてはいたが
まさかとは」

「これじゃまるで
私が変態じゃ
ねーか」

「えつと
じゃあ」

「ちゃんと見て
くださいねっ」

えいつ

だい
第96箱

はこ
「僕の仕事だからね」

わたし
私のパンツ

かわい
可愛い
ですか？

どうですか
球磨川せんぱい





「……………!?!」

「狙撃つ……!?!」

ええ
セブミヤ
狙撃銃

しかも
アンチマテリアル
ライフル

バレット
ミム
M82A1で
あります



ですが
あんしん
ご安心ください

使っているのは
殺傷能力のない
模擬弾ですので

頭部に被弾しても
のうないしあつ
脳内出血を起こして
死ぬ程度であります



「……くっ」
「銅像ちゃんか」

「とにかく
射線から
外れないと……」

「何……？」
「電撃!?」

「スタンガン!」

「違いますっ」

「これは私の
雷系魔法」

「サンダーボルト
ですっ!」



「……与次郎ちゃん!?」
「魔法!」

「いやいやだって
それどう見ても……!」

「どう見ても
魔法ですっ」

「そして
喰らってください」

「間近でマジカル☆
ワンダーツギハ」で
おなじみの私が!

「もっとも得意とする
水系魔法——」

『ウォーター
ボトル』!!



「ぐっ」
「あっ…の」

「濃硫酸^{のうりゅうさん}ん
んんっ!!」



「熱っ…」

「焼け…」
「溶け…る!」

「早く洗^{あら}い
流^{なが}さないと…」



「確かこの校舎^{こうしゃ}の
すぐそばに」

「昔^{むかし}使^{つか}われてた
プールが…」

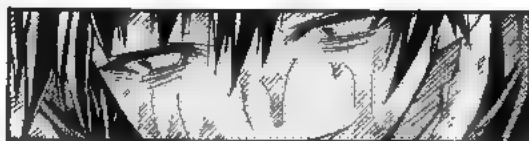




そんな風に。









『大丈夫』
だいじょうぶ

『一人で
立てる。』
ひとり たて



球磨川 禊か
くまがわ けい

安心院さんが
目をかけていたと
いうからどれほどか
思ってたけど
あんしん さんが めを かけていたと いいう から どれほどか と おもって たけど

雑魚と言ったら
魚に悪いような
男だったわね
ざこ と言ったら 魚に 悪いような 男だった わね



機械的に言えば
今の彼は
『大嘘憑き』を
失っていますから
機械的に 言えば 今の 彼は 『大嘘憑き』を 失っています から

強度としては
一般人に倒せる
レベルの弱さ
なのです
強度としては 一般人に 倒せる レベルの 弱さ なのです

この調子なら
黒神とかも倒せちゃうん
じゃにやいの？
この 調子なら 黒神とかも 倒せちゃうん じゃにやいの？

イージーな
ゲームなんて
つまんにやいよ
イージーな ゲームなんて つまんにやいよ

いっそハードモードに
チャレンジしちゃう？
いっそ ハードモードに チャレンジしちゃう？

それは駄目だ
ありえない

黒神めだかに
手を出すのは
悪平等の意志に
背くことになる

そうそう
それに
黒神さんから

後継者として
育ててもらうのが
私達のお仕事
なんだから!

敵でも味方でも
他人でもない
距離で

私達は
黒神さんと
接さなきゃね

だから正体を
隠す意味でも
しばらくは身辺に
用心しておいたほうが
いいかもな

あれだけのことを
されたのだ——
球磨川殿が仕返しに
こないとも限らない

あは!

臆病者め

私から拷問を受けて
仕返しに来た人なんて
一人もいないわ

それに希望が丘ちゃんの
言ってた通り
今の彼は「大嘘つき」を
使えないんだし

あのまま二か月は
病院暮らしでしょ

その心配は
いらないわよ
鋼塚ちゃん

…そう言えば

機械的な
情報ですが

ひとつ
思い出しました

キュイイイイ

あんしんいん
安心院さんが
くまがわみそぎ
球磨川禊に
め
目をかけていたのは

かれ
彼が『大嘘憑き』を
オールフイクション
つか
使う以前の話でした
はなし

オールフイクション
「大嘘憑き」を
身につける前から

くまがわみそぎ
球磨川禊という
男は

たお
倒れてもすぐに
たちあがる

あたり前みたいなの
不死身の怪物
だったそうです

はか
馬鹿な
まいつなんぞ
動けもんだ

あら
球磨川せんばい

げんき
お元気
そうですね

「うん」

「まあ」

うで
「腕のいい医者を知っているね」

女子中学生の
やることに
目くじらを立てて
仕返しに来たんですか

根暗
ですねー

そんなんだから
マイナスとか
言われるんですよ

「仕返しじゃないよ」
「仕置きにきたんだ」

「役員見習いの
素行を
指導するのは」

「副会長たる
僕の仕事
だからね」

そうですか
では！

仕返しでも
仕置きでも

指導でも
仕事でも

できる
ものなら！

「大嘘憑き」を
持たないあなたに
何ができるのか！

見せてくださいよ
球磨川せんぱい！！





「…誤解には
慣れてるけども
一応言っておこうか」

「僕は戦闘において
『大嘘憑き』みたいな
面白手品を
アテにしたことなんて」

「実はそんなに
なかったりするんだぜ」

「馬鹿な…
一瞬だとい！」

「だけど
球磨川様は！」

「誰よりも
弱いはずじゃ
なかったのか!？」

「弱いよ」
「僕は地球上で
一番弱い生き物だ」

「弱さという弱さを
一つ残らず
知り尽くしている」

「だから」

「きみ達の弱点や
死角が」
「突くべき隙が
よくわかるのさ」

「まあもともと」
「弱点のない
めだかちゃん
あたりには」

「これはまるつきり
通じない戦法
だけだね…」

「ふふっ…しかし
服を縫い付けるだけ
なんて随分と
手ぬるいですね」

「大嘘憑き」で
傷が戻せないとなると
女子中学生の肉体を
貫くのはさすがに
気が引けちゃうんですか？

「…そうだね」
「それについては
財部ちゃん」

「確かに『大嘘憑き』を
なくしたことで」

「きみに恥ずかしい思いを
させる結果になってしまって
すまないと感じているよ」

?

なに
何を言って…

……って！

きゃああああ
あああああっ!?

あらた
改めて見ても
可愛い
可愛いパンツだね

『だけど
たからべ
財部ちゃん』

『きみの笑顔は
えが
もっと可愛いぜ』

オールファウエン
大嘘憑き白を持たない
あなたに何かでござるのか！

見せてくれたさいよ
球磨川せんぱい！！

後から思えば
完璧な前振り。



ふんだっ！

パンツくらい
見たければいくらでも
見ればいいわっ！

球磨川
せんばいっ！

あなたみたいなの
気持ち悪い人に
いくら見られたって！

恥ずかしくなんか
ありませんっ！！

恥ずかしいよあ
おおおおっ！！

だい
第97箱

はこ
「笑ってやってください」





「女子中学生を裸にして楽しむなんてつもりはないんだ」

「着なよ」
「僕は何も」



「これは何の真似ですか？」



「と言うか——この辺でお開きにしてかないかい？」

「役員見習いに対するお仕置きとしては先輩じゃなかったと思っっているし」

「まあ正直きみ達がどうして僕に因縁ふっかけてきたのかは謎だけれど」

「いわれなき暴力やあどけない迫害には僕は慣れてるからね」



「優しいんですね 球磨川せんはいっ」



「だから「ごめんなさい」って」

「ひと言謝ってくれたら許してあげるよ」

ちょうど
欲しかったんですよ

汚れた靴をぬぐう
雑巾が☆

「…好意を
踏みにじられるのも
慣れてる」

「今謝るなら」
「だからそれも
許してあげるぜ」

なめんじやねーよ
カネが

お断り
します

私は謝ったり
感謝したり
するのが

他人に
頭を下げるのが
大嫌いなんです！

特に！

球磨川
せんばい

あなたみたいな
気持ち悪い
人にはね！

あううっ…
外れないっ…

このまじや
財部ちゃんか…

いえまだ

勝負がどう
転がるかは
わかりません

機械的に言えば
球磨川様は
「人の弱さが見える」
だけです

ならば
何らかの手段で

その視界を
封じることが
できれば—



あいて
みも
な
弱点も何も
ないでしょ！

あはっ



「目隠し…」

「？」



そして
弱さを極めた
あなたの場合は！

球磨川せんぱい！

どに
ぶち込んで
弱点です！！



「僕を」

「気持ち悪い僕を
見ることに
耐えられなかった
きみ自身にだ」

「見えな
ければ」

「そんな風に
思った
きみの心が」

「僕から見れば
確認するまでもない
弱点だよ」

.....
!!



「さあどうする？」
「意外とまだ」

「謝るの
は間に合
ったりす
るんだぜ」

怖い怖い怖い怖い
怖い怖い怖い怖い
怖い怖い怖い怖い

……
謝りません！

私は絶対！
あなたみたいな人には
謝らない！！



「そう」

「だったら
教えてあげるよ
女子中学生」

「過負荷相手に
ルール無用で戦う
愚かさを。」



待て！
そこまでだ
球磨川渡り！

「おっと……
拘束を解いたかい」

「まあ
いいや」

「二対多数の
状況にも僕は
慣れている——」





『.....』





『また
勝^かてなかつた』

『どうして
勝^かてないんだ』

『僕は』



あっ！

.....

大丈夫？
財^{タカ}部^カちゃん！

どこか一本^{ほん}くらい
刺^ささつてない！？

怖^{こわ}かったよね
しっかりして！

うっさいわね

何^{なに}勝^かつて
してんのよ！

ごめんね！
ごめんね！

ありがとう！

みんな
大好き！

あんなこと
されても
迷惑なのよ！

死ね！死ね！
みんなみんな
だいっ嫌い！！



「あ」

「しまった
学ラン
忘れてきちゃった」

「困ったなあ」
「しかしあれだ」

「食べるのだけは
何度経験しても
慣れないよなあ」



まあまあ

つきな
月並みだけど

しょうり
勝利よりも
たいせつ
大切なものを
てい
手に入れたんだと
かんが
考えたまえよ
くまがわ
球磨川くん



つか
女子中学生のパンツを
見れたんだ

その時点で
勝ちだろ
男子的に

「……
やっぱり」

「あの五人は
きみの差し金だよ」

「安心院さん」

いやいや僕は
止めたんだぜ(嘘)

でもまあ
なんだ

くまがわ
球磨川くんから
あの子達に
教えてあげて
欲しくてね



なんていうのかな

そう

自分達の
無力さって
奴をさ

「無力さ」……

「と」
「いうことは
やっぱり」

そうだよ
球磨川くん

お察しの通り
あの五人は
普通だ

アノーマル
異常性も
マイナス
過負荷も

なんスキル
何の能力も
持ち合わせて
いない

個性的で
ユニークで
風変わりな

どこにでもいる
女の子達さ

ゆるふわ系
四コマに出てくる
ような

間違っても
少年ジャンプには
登場しないだろう
普通の女の子だ

人吉くんと
同じくね

おおっと！

あの子は今や
普通じゃ
なかったんだっけ？

「……」
「見抜けない
わけだぜ」

「悪平等が
混じってるって
言ってたのは
騙しかよ」

それでも
ない

あの五人は

ぜんしん
全身が分身以上の
僕自身だ



スキルを
貸し出さなかったのは
邪魔になると思った
からだよ

めだかちゃんが
あの子達を
育てるにあたって

僕らしさは
なるべく取り除いて
おいたほうが
いいからね

「確かにね」
「あの子達と
めだかちゃんじゃ
戦いどころか
勝負にもならない」

「戦いを避けたい
安心院さんらしい
人選だよ」



『皮肉な
もんだぜ』

『スペシャル アブノーマル マイナス
相手取ってきた
めだかちゃんの』

『最後の敵が
普通だなんて』



「だから
そういう考え方が
愚劣なんだって」

球磨川くんも

めだかちゃんも

敵も味方も
大切にする

なるほど
聞こえのいい
ポリシーだが

しかし
そんな言葉を
言う時点で

きみ達は
敵と味方を
区別している

敵^{てき}なんか
いないんだよ

いるとすれば
心^{こころ}の中^{なか}に

きみ達^{たち}に
そつくりな奴^{やつ}が
いるだけだ



だから
闇雲に戦おうと
しないでくれ

悪平等や五人を
よく見極めてくれ—
本当に僕は
倒すべき相手かい？

僕は誰にも
傷ついて欲しくない
だけなんだ

生徒会執行部と
フラスコ計画—
めだちちゃんと

それは決して
共存できない
関係じゃないと
思うんだよ……



……
大丈夫かな？

たぶん昨日の一件で
球磨川副会長には
私達の正体って
バレたでしょう？

もしもあの人が
黒神会長に
ありのままを
報告したら

私達の研修って
かなり難しく
ならないかしら？

……その心配は
ないと思うわ

あの人は
私達のところから
なんとなく

自分ひとりの胸に
収めてくれる
気がするの

ぎゅっ

なんだよ
財部ちゃん
わかつたような
こと言っじゃん

フーカ
その紙袋なに？

これは別に—

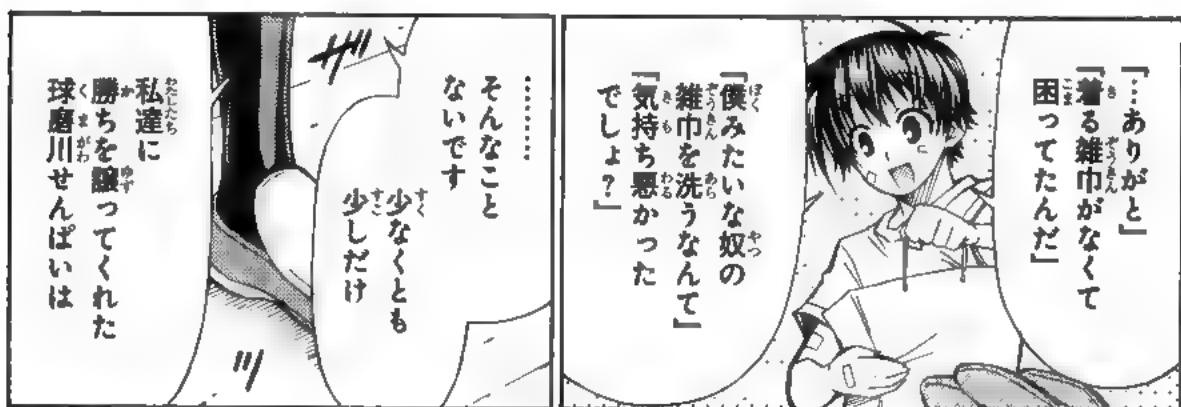




お借りしていた
雑巾ぞうきんを
お返ししますっ

あのっ…
そのっ…

ちゃんと
洗あらってきま
したのでっ！



「…ありがと」
「着る雑巾ぞうきんがなくて
困こまってたんだ」

「僕ぼくみたいなの奴やつの
雑巾ぞうきんを洗あらうなんて」
「気持ち悪わるかった
でしょ？」

………
そんなこと
ないです

少なくとも
少しだけ

私達わたしたちに
勝かちを譲ゆずってくれた
球磨川くまがわせんばいは



結構けっこうよかったです。



球磨川くんの「大嘘憑き」は、元を正せば僕が貸してあげた「手のひら翳し」を下敷きにしているんだ。まあ更に正せば、「貸してあげた」というより「隠してあげた」って感じなんだけどね。どちらにせよあまりに不用意なレンタルだと、僕を責めなくなる気持ちにはわかるけれど、しかしその非難はお門違いというものだ。僕の「手のひら翳し」は、「事象の卵細胞化」、つまり「因果を逆流させる」だけの、極めて平和的なスキルなのだから。球磨川くんはそのスキルを改造して「因果をなかったことにする」スキルにしちゃったんだ、なんてことを。「鶏が先か、卵が先か」という例の議論を「ごめん、両方食べちゃった」のひと言で終わらせたみたいなのなんだよ。まあもっとも、彼にスキルを渡してしまえばそれがどんなスキルであれロクな結果にならないことはわかっていた。それでも僕がそうしたのは、彼の固有スキル「却本作り」を取り上げるためなのさ。あのスキルは唯一、史上唯一、愚平等たる僕に有効なスキルだからね。あれを球磨川くんから取り上げるためなら、僕は彼になんだってあげたさ。しかしめだかちゃんの活躍で、その「却本作り」も効果を大半失った。封印されていた僕が復活できたのがいい証拠さ。とは言え、「大嘘憑き」と「却本作り」、この二大スキルを失ったからと言って球磨川くんが人畜無害な男子高校生になったかと言えば、そういうわけじゃない。気をつけろよ、マイナスにとって、スキルなんて余計な添え物みたいなものなんだから。



く ま がわみそぎ
球磨川禊
オールフィクション
『大嘘憑き』
ブックメーカー
『却本作り』



そんなわけで
球磨川禊が
仲間になった

彼は性格こそ最低だが
人懐っこい男ではあるので

案外あっさりと
生徒会執行部に
馴染むのだった

くまがわじけんほい
『球磨川事件補遺』

「めだかちゃん」

「この書類って
こっちでいいの？」

「善吉ちゃん」

「例の案件
どうなってるかな」

「高貴ちゃん」

「先に休憩
してきていいよー」

「喜界島さん」

「予算のことで
相談があるんだけど」





く ま がわ みそぎ むか
球磨川禊を迎え、

ほん かく し どう
本格始動——!



私のようには
なるな。

たたか ゆ く え
戦いの行方は!?

ねん
2011年
10 月発売予定!!
がつ はつ ばい よ てい

じ かん ふく かい ちょう
次巻、副会長に

だい だい せい かい
第九十九代生徒会



今日のテーマは「宝探し」

を舞台に
「ハンティングを
らおうと思う

模擬学園を舞台に
トレジャーハンティングを
やってみようと思う

今日のテーマは
「宝探し」



ノ ッ ト イ コ ー ル

悪平等との

めだかボックス

だい かん
第12巻

■ジャンプ・コミックス

めだかボックス

Ⅲ「今も昔もそんな君が」

2011年8月9日 第1刷発行

著 者 西 尾 維 新

©NISIOISIN 2011

暁 月 あ き ら

©Akira Akatsuki 2011

編 集 ホ ー ム 社

東京都千代田区一ツ橋2丁目5番10号
〒101-8050

電話 東京 03(5211)2651

発行人 鳥 嶋 和 彦

発行所 株式会社 集 英 社

東京都千代田区一ツ橋2丁目5番10号
〒101-8050

03(3230)6233(編集部)

電話 東京 03(3230)6191(販売部)

03(3230)6076(読者係)

Printed in Japan

製版所 株式会社 コスモグラフィック

印刷所 凸版印刷株式会社

造本には十分注意しておりますが、乱丁・落丁
(本のページ順序の間違いや抜け落ち)の場合は
お取り替え致します。購入された書店名を明記
して、集英社読者係宛にお送り下さい。送料は集
英社負担でお取り替え致します。但し、古書店で
購入したものについてはお取り替え出来ません。
本書の一部または全部を無断で複写、複製する
ことは、法律で認められた場合を除き、著作権の
侵害となります。また、業者など、読者本人以外
による本書のデジタル化は、いかなる場合でも
一切認められませんのでご注意下さい。

ISBN978-4-08-870274-2 C9979